

Red Hat Linux 7.1

オフィシャル **Red Hat Linux** **iSeries** インストールガイド

 Red Hat, Inc.

Red Hat Linux 7.1: オフィシャルRed Hat Linux iSeries インストールガイド 製作著作*

2001 : Red Hat, Inc.



Red Hat, Inc.

1801 Varsity Drive Raleigh NC 27606-2072 USA Phone: +1 919 754 3700 Phone: 888 733 4281 Fax: +1 919 754 3701 PO Box 13588
Research Triangle Park NC 27709 USA

rhl-ig-iseries(JA)-7.1-Print-RHI (2001-03-14T12:41-0500)

Copyright © 2002 by Red Hat, Inc. この資料は、公開著作ライセンスV1.0又はそれ以降(ライセンスのバージョンは現在、次のサイトで御覧になれます。 <http://www.opencontent.org/openpub/>)の中で設定されている規定と条件に添う認識の元に、配布されています。

著作権所有者の明確に表現した許可がない限り、本マニュアルの改変版の配布は禁じられています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、どのような一般的な(紙の)書籍の形式においても、製作物およびその製作物から派生するものを商用の目的のために配布することは禁止されています。

Red Hat、Red Hat ネットワーク、Red Hat Shadow Man ロゴ、RPM、Maximum RPM、RPM ロ

ゴ、LinuxLibrary、PowerTools、Linux Undercover、Rmember、RHmember More、Rough Cuts、Rawhide、およびRed Hat関連の商標やロゴはすべて、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの登録商標です。

MotifおよびUNIXは、The Open Groupの登録商標です。

Intel と Pentium はIntel Corporationの登録商標で、Itanium と CeleronareはIntel Corporationのトレードマークです。

AMD、と Athlon、AMD Duron、と AMD K6 はAdvanced Micro Devices, Incのトレードマークです。

NetscapeはNetscape Communications Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

WindowsはMicrosoft Corporationの登録商標です。

SSHおよびSecure Shellは、SSH Communications Security, Incの商標です。

FireWireは、Apple Computer Corporationの商標です。

その他すべての商標および引用された著作権は、所有する各社のものです。

security@redhat.comキーのGPG fingerprint は:

CA 20 86 86 2B D6 9D FC 65 F6 EC C4 21 91 80 CD DB 42 A6 0E

目次

1章はじめに	1
1.1. マニュアルの表記法	1
1.2. 本マニュアルの使用法	2
2章準備のためのステップ	5
2.1. 追加のハードウェア関連マニュアルの確認	5
2.1.1. 他の資料	5
2.2. 他のRed Hat Linuxマニュアルを検索する場所	5
2.3. インストールの為にiSeriesハードウェアの準備	5
2.4. ディスク容量は十分ですか?	5
2.4.1. インストールに必要なディスク容量	6
2.5. どのインストールクラスが最適ですか?	6
2.5.1. ワークステーションクラスインストール	7
2.5.2. サーバークラスインストール	8
2.5.3. カスタムクラスインストール	9
3章Red Hat Linuxのインストール	11
3.1. インストールプログラムのユーザーインターフェイス	11
3.1.1. キーボードでの操作	13
3.2. インストールプログラムの起動	13
3.3. ドライバーディスクの使用	13
3.4. 言語の選択	14
3.5. Red Hat Linuxへようこそ	15
3.6. インストールのオプション	16
3.7. ディスクパーティションの設定	17
3.8. システムのパーティション設定	19
3.8.1. パーティションフィールド	20
3.8.2. パーティション設定に関する推奨事項	21
3.8.3. パーティションを追加する場合の問題	21
3.8.4. ドライブの説明	21
3.8.5. Disk Druidのボタン	22
3.8.6. パーティションの追加	22
3.8.7. パーティションの編集	23
3.8.8. パーティションの削除	23
3.9. fdiskを使ったパーティション設定	23
3.10. パーティションのフォーマット	25
3.11. ネットワークの設定	26
3.12. ホスト名の設定	27
3.13. ファイアウォールの設定	28
3.14. マウスの設定	31
3.15. 言語サポートの選択	32
3.16. タイムゾーンの設定	33
3.17. アカウントの設定	34
3.17.1. ユーザーアカウントの設定	36
3.18. 認証の設定	37
3.19. パッケージグループの選択	39
3.19.1. 個別パッケージの選択	40
3.19.2. 未解決の依存関係	41
3.20. インストールの準備完了	42
3.21. パッケージのインストール	43
3.22. インストールの完了	44
3.23. レスキューモードでインストールディスクの使用	45
3.24. レスキューモードでSCSIユーティリティにアクセスするための特別な配慮	46

A. テクニカルサポートを受けるには	47
A.1. ユーザー登録の実行.....	47
A.2. Red Hat サポートの概要.....	47
A.3. Red Hat サポートの範囲.....	48
A.4. テクニカルサポートのご利用方法.....	48
A.4.1. テクニカルサポートの為のユーザー登録.....	49
A.5. テクニカルサポートへの質問.....	49
A.5.1. サポートへの質問の出し方.....	50
A.6. 良くある質問へのサポート対応(FAQ).....	50
A.6.1. Q: support@redhat.comへのEmailが戻って来る.....	50
A.6.2. A: support@redhat.com は現在使用されていません.....	50
A.6.3. Q: システムにログイン出来ません.....	50
A.6.4. A: 古いログインとパスワードは使用できません.....	50
B. Red Hat Linuxインストール時のトラブルシューティング	51
B.1. インストール中の問題.....	51
B.1.1. 自動パーティション設定画面が表示されない.....	51
B.1.2. パーティション作成の問題.....	51
B.1.3. 未使用領域の使用.....	51
B.1.4. パーティション設定の他の問題.....	51
B.1.5. Pythonのエラーが出る.....	51
B.2. インストール後の問題.....	52
B.2.1. *NWSSTGからIPL(初期プログラムロード)できない.....	53
B.2.2. サーバインストールとXに関する問題.....	53
B.2.3. ログイン時の問題.....	53
B.2.4. Netscape NavigatorがJavaScriptページでクラッシュする問題.....	53
C. Red Hat Linuxの再インストールと既存データの保存	55
C.1. iSeries Red Hat Linuxの論理パーティション上の既存データを保存する.....	55
C.2. 別の考察: iSeries 仮想ディスク.....	55
索引	57

第1章

はじめに

オフィシャルRed Hat Linux iSeries インストールガイドへようこそ。

オフィシャルRed Hat Linux iSeries インストールガイドには、Red Hat Linux のインストール時にお手伝いするための役立つ情報が記載されています。インストールの準備(現行システムに関する情報収集)などの基本概念からステップバイステップのインストール手順まで、Red Hat Linuxをインストールする時の貴重な情報源としてお使いいただけます。

本マニュアルはRed Hat Linux CD-ROMを使用した標準的なインストールについて説明をしています。このマニュアルに示されたおとりにインストールが完了すれば、完全な機能を備えたRed Hat Linuxデスクトップシステムを手に入れることになります。



警告

インストールプロセスを完了するには、項3.22に示してある全てのステップを実行する必要があります。これらのステップが適切に守られない場合は、正常に機能するRed Hat Linux iSeriesのインストールが出来ないこととなります。

1.1. マニュアルの表記法

本マニュアルを読み進むと、特定の単語が異なるフォント、書体、サイズ、太さで表記されていることが判るはずです。この強調表示は規則に従って設定してあります。異なる単語であっても同じスタイルで表記されている場合は、それらは特定のカテゴリに含まれることを示します。この様に表記される単語のタイプには以下のようなものがあります：

command

- Linux コマンド(場合によってはその他のオペレーティングシステムのコマンド)はこの様に表記します。この表記がある場合、その文字列をコマンドラインで入力して[Enter]を押せば、そのコマンドを実行することになります。コマンドの中に、それとは異なる表記の部分(例えばファイル名)を含んでいる場合があります。そのような場合でもそれはコマンドの一部として見なされて、全体が1つのコマンドとして表示されます。例えば：

cat testfileコマンドは、現在作業中のディレクトリにある、testfileという名前のファイルの内容を示すのに使用するコマンドです。

filename

- ファイル名、ディレクトリ名、パス、RPM パッケージ名はこの様に表記します。このスタイルは、その名前前の特定のファイルやディレクトリがRed Hat Linuxシステム上に存在することを示します。例えば：

ホームディレクトリ内の.bashrcファイルにはそのユーザー用のbashシェル定義とエイリアスが保存されています。

/etc/fstabファイルには、各システムデバイスとファイルシステムの情報が保存されています。

/usr/share/docディレクトリには、さまざまなプログラムに関する文書が含まれています。

Webサーバのログファイルを解析するには、webalizer RPMをインストールして下さい。

application

- このスタイルは、プログラムが（システムソフトウェアではない）エンドユーザーアプリケーションである場合に使用されます。例えば：

Netscape **Navigator** を使用してWebを閲覧します。

[key]キー

- キーボード上のキーはこのスタイルで表記します。例えば：
[Tab]キーによる補完機能を使用するには、1文字入力してから[Tab]キーを押します。端末は、ディレクトリ内のその文字で始まるファイル群のリストを表示します。

キー操作の組合せ

- キー操作の組合せは、この表記を使用します: [key]-[key]. 例えば：
[Ctrl]-[Alt]-[Backspace] キーの組合せを押すと、X Window Systemを再起動することができます。

GUIインターフェイス上のメニュー文字列

- GUIメニューからコマンドの文字列を使用する必要がある場合、次の例のように表記されます：
Programs=>Applications=>Emacs の順にクリックして、**Emacs**テキストエディタをスタートします。

さらには、特定の情報に向けてユーザーに注意を引くために幾つか別の表記法を使用します。システムに対する重要度の順に、これらの項目は、「注意」、「用心」、「警告」と表記されます。例えば：



注意

Linuxは、大文字/小文字を区別します。つまり、**rose**は**ROSE**と**rOsE**とは異なります。



用心

日常の操作は**root**で実行しないで下さい。— システムの管理を**root**アカウントで操作をする必要があるとき以外は、通常のユーザーアカウントを使用して下さい。



警告

手動でパーティション設定を行わない場合、サーバーシステムインストールを実行すると、インストール先のLinux論理パーティションに割り当てたハードディスクドライブ上の既存のデータはすべて削除されます。既存のデータの保存に関しては再インストールの前に付録Cを確認するか、データを保存できる他のインストールクラスを考慮して下さい。

1.2. 本マニュアルの使用方法

このマニュアルはCD-ROMをベースにしたインストールに焦点を置きますので、迅速で簡単なインストールの方法を知りたいユーザー(初心者、経験者共)にとって理想的な物です。システムの準備からお手伝いをしてインストールの工程を説明し、Red Hat Linuxの設定までお手伝いします。

経験のあるユーザーが自分でRed Hat LinuxのCD-ROMインストールを実行できる状態で基礎の復習が必要ない場合は、直接第3章へ行き、インストールを始めてください。



ヒント

良くある質問とその回答や、インストール中、又はインストールの前後で発生する可能性のある問題については、**Red Hat 良くある質問**を参照して下さい。この「良くある質問(FAQ)」は以下のサイトで御覧になれます：

http://www.redhat.com/support/docs/faqs/rhl_general_faq/FAQ.html

第2章

準備のためのステップ

Red Hat Linuxをインストールする前に、以下のステップを実行する必要があります：

2.1. 追加のハードウェア関連マニュアルの確認

インストールプロセスは、IBM iSeriesプラットフォームへの基本的な精通を想定しており、IBMの*Configuring Linux in a guest partition*への参照をします。一般的に、このセクションは、ユーザーがすでに*Configuring Linux in a guest partition* マニュアル、(<http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/v5r1/ic2924/info/rzalm/rzalmlinuxkickoff.htm>)の全章を読み終っていると想定しています。

2.1.1. 他の資料

iSeriesのハードウェアについての詳細は、次の資料を参照して下さい。

2.1.1.1. 役に立つWebサイト

- *Configuring Linux in a guest partition* — <http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/v5r1/ic2924/info/rzalm/rzalmlinuxkickoff.htm>
- iSeriesの為のLinux — <http://www-1.ibm.com/servers/eserver/series/linux/>

2.2. 他のRed Hat Linuxマニュアルを検索する場所

購入された特定のボックスセット内に、印刷物のRed Hat Linuxマニュアルがなかった場合、オンラインで検索できます。またRed Hat LinuxドキュメントCDにも掲載されています。

HTML 及びPDF形式のマニュアルをオンラインで見るとするには次のサイトを御覧下さい。 <http://www.redhat.com/support/manuals>.

2.3. インストールの為のiSeries ハードウェアの準備

インストールの為にiSeriesシステムを準備するには、*Configuring Linux in a guest partition* マニュアルの中の論理パーティション上のLinux稼働計画及びLinux用論理パーティションの作成のセクションの説明に従います。

仮想LANのインターフェイスはDHCPか静的IPアドレスのどちらかで設定します。OS/400装置の設定に関する情報は、OS/400コマンドマニュアルを参考にして下さい。パーティションはIPLタイプのA、B、*NWSSTGのいずれかで設定できます。IPLタイプ*NWSSTGを使用する場合、4 MBのPrePブート(プライマリでアクティブ)パーティションを1番目の仮想ディスクに置く必要があります。

2.4. ディスク容量は十分ですか？

最近のオペレーティングシステム(OS)は、ほぼすべてがディスクパーティションを使用しています。Red Hat Linux も例外ではありません。Red Hat Linuxをインストールする時には、ディスクパーティションに関する作業をする必要がある場合があります。もし、以前にディスクパーティションの

操作をしたことがない場合(又は、基本概念を復習したい場合)は先に進む前に、オフィシャル*Red Hat Linux* 参照ガイドの付録、ディスクパーティションの概要をお読み下さい。

Red Hat Linuxをインストールするハードディスクドライブに十分な領域が空いていることを確認する必要があります。

これらのディスク、特に仮想ディスクはユーザーの最大ニーズに対してインストール以前に十分に大きい領域を持っている必要があります。iSeriesでは、これらのディスクを他のLinuxパーティションや他のオペレーティングシステムと共有する必要はありません。**Red Hat Linux**がインストールされるパーティションの為にディスク領域を計画して下さい。

インストールプロセスを開始する前に、以下の条件のいずれかが満たされる必要があります：

- コンピュータに**Red Hat Linux**をインストールする為の十分なパーティション未設定のディスク領域がある。
- 削除できるパーティションが1つ又は複数あり、そこに**Red Hat Linux**のインストール用に開放できる十分なディスク領域がある。

2.4.1. インストールに必要なディスク容量

ワークステーション-クラス

- ワークステーション-クラスのインストールでは、GNOME又は、KDEのインストールを選択すると、1.2 GBの空き領域を必要とします。GNOMEとKDEの両方を選択すると最低限、1.5 GBの空き領域を必要とします。

サーバ-クラス

- サーバ-クラスのインストールは、最小インストールで650 MBの領域が必要で、全てのパッケージを選択すると1.2 GBの空き領域が必要です。

カスタム-クラス

- カスタム-クラスのインストールでは、最小限インストールで300 MBが必要で、すべてのパッケージが選択された場合は、最低2.4 GBの空き領域が必要です。



注意

自動パーティション設定を使用するには、十分な空き領域が必要です。(1.2 GB 又はそれ以上)；もし十分な空き領域がない場合は、インストールの時点でこのオプションが表示されません。

これらの条件に適合するかどうか不明な場合、又は**Red Hat Linux**インストール用に空き領域を作成する方法を知りたい場合は、オフィシャル*Red Hat Linux* 参照ガイドの中のパーティション設定に関する付録を参照して下さい。LILOとIntel関連BIOSに関する事項のセクションは無視できます。

2.5. どのインストールクラスが最適ですか？

通常**Red Hat Linux**は、専用のディスクパーティションにインストールされるか、すでにインストールされているLinuxに上書きしてインストールされます。



警告

他のLinuxインストール(Red Hat Linuxを含む)の上へのRed Hat Linuxの上書きインストールは、以前のインストールの情報(ファイルやデータ)を保存しません。重要なファイルは必ず保存して下さい。このようなインストールをして現在のデータを保存したい場合は、付録Cを参照して下さい。

iSeries プラットフォームでは、Red Hat Linux は3種類のインストールクラス、又はタイプを用意しています:

ワークステーション

- ワークステーション-クラスインストールは、デスクトップシステムの利用者に最適なインストールです。このオプションはiSeriesシステムには推薦できません。

サーバ

- サーバ-クラスインストールは、システムをLinux ベースのサーバとして使用したいが、システム設定にあまり大がかりなカスタマイズはしたくない場合に最も適しています。サーバ-クラスインストールがiSeriesシステム用に推薦されるインストールクラスです。

カスタム

- カスタム-クラスインストールでは、インストール中にもっとも柔軟な選択ができます。パーティション設定や、パッケージの選択、その他を自分で選択することができます。カスタム-クラスインストールは、Red Hat Linuxのインストールに習熟しているユーザーに最適です。

これらのクラスではインストールのプロセスの簡素化(設定の柔軟性を低減する可能性はあります)をするか、あるいは少しより複雑なインストールプロセスで柔軟性を維持するという、オプションがあります。ユーザーにとって最適なクラスが選択できるように、以下にそれぞれのインストールクラスの詳細を説明します。

2.5.1. ワークステーション-クラスインストール

新しいユーザーに最も適しています。ワークステーション-クラスインストールは、ユーザーが選択するGNOME又はKDE デスクトップ環境(あるいは両方)とX Window Systemをインストールします。



警告

ワークステーション-クラスのインストールでは、ユーザーのコンピュータのLinux論理パーティションにある全てのLinux関連のハードディスクパーティションの全ての情報を削除してしまいます。システム上の既存データを保存出来るオプションに関しては付録Cを参照して下さい。

ワークステーション-クラスインストールで推奨される最低必要なディスク容量を以下に示します。

- GNOMEを選択するワークステーション: 1.2 GB
- KDEを選択するワークステーション: 1.2 GB
- GNOMEとKDEの両方とゲームを選択するワークステーション: 1.5 GB

全てのパッケージグループ(例えば、GNOME は1つのパッケージグループです。)と追加の個別パッケージをいくつかインストールする場合、1.5 GB又はそれ以上のディスク容量が必要となります。余分な容量を確保すれば、必要な時に追加データ用のスペースが用意されています。



注意

Red Hat Linux 7.0以前のワークステーションクラスインストールと違って、Red Hat Linux 7.1ワークステーションクラスのインストールは、ネットワークデーモン`xinetd`(inetサービス)はインストールしません。`xinetd`がインストールされないとより安全なインストールができます。しかし、`finger`、`telnet`、`talk`、`FTP`などの受け入れ型ネットワークのサービスは機能しません。¹このようなサービスが必要な場合は、前の画面に戻り、サーバ-又は、カスタム-クラスインストールを選択して下さい。

2.5.1.1. ワークステーション-クラスインストールで行われること

自動パーティション設定を選択すると、ワークステーション-クラスインストールでは、全てのハードドライブ上の全てのLinux関連のパーティションを削除して(そして全ての未設定の空き領域を使用して)、以下のパーティションが作成されます：

- 64 MBのスワップパーティション。
- 8 MBのPRePブートパーティション。Linuxカーネル又は、ブートログが収納されます。
- 自由サイズのルートパーティション(「/」としてマウントされる)。他のファイルがすべて収納されます。このサイズは利用可能なディスク容量によって決定されます。

2.5.2. サーバ-クラスインストール

サーバ-クラスインストールは、システムをLinuxベースサーバとして使用して、システム設定を大幅にカスタマイズしたくない場合に最適です。

サーバ-クラスインストールに推奨される最小ディスク容量は以下のようになります：

- サーバ(最低限): 650 MB
- サーバ(全てを選択): 1.2 GB

全てのパッケージグループと追加の個別パッケージをいくつかインストールする場合、1.2 GB又はそれ以上のディスク容量が必要となります。

この時点でユーザーは、Red Hatインストールプログラムが要求する容量に対し、どれ程の追加領域が必要かを確認して、ディスク領域計画を決定しておく必要があります。また、必要な領域の取得先が仮想ディスクか、物理ディスクか、又はその両方かを決定しておく必要があります。インストールを完了してしまうとパーティションのサイズ変更は、分裂状態を招きます。



警告

サーバ-クラスインストールはユーザーのコンピュータのインストール先のLinux論理パーティションにある全ての(物理又は、仮想)ディスク情報を削除してしまいます。既存データを保存出来るオプションに関しては付録Cを参照して下さい。

1. 例えば、他のシステムに向かってtelnetが可能でも、他のシステムがこちらのシステムにtelnetできません。

2.5.2.1. サーバークラスインストールで行われること

サーバークラスインストール時に、パッケージの選択の中で、適切なパッケージを選択していないと、システムブート時に*X Window System*が設定されず、*GUI*もロードされません。自動パーティションを選択する場合、インストールプログラムは既存のパーティション上の全てのデータを削除して、新しいバージョンのディスクで設定するパーティションを決定します。

自動パーティションを選択するとサーバークラスインストールが全てのハードドライブの全ての既存パーティションを削除しますので、このインストールクラスは保存すべきものがない確信を持っている場合のみ選択してください。インストールが完了すると、以下のパーティションが構成されています：

- 256 MB のスワップパーティション
- 256 MB のパーティション(/としてマウント)
- 512 MB以上のパーティション(/usrとしてマウント)
- 512 MB以上のパーティション(/homeとしてマウント)
- 256 MB のパーティション(/varとしてマウント)
- 8 MBのPReP ブートパーティション。Linux カーネル又は、ブートローダが収納されます。

このディスクパーティション設定計画は、ほとんどのサーバ用作業に適切な柔軟性を与えるファイルシステム設定となっています。

2.5.3. カスタム-クラスインストール

カスタムクラスインストールでは、インストール時に最も大きな柔軟性が得られます。ワークステーション-クラスインストールとサーバークラスインストールでは、インストールプロセスが自動的に実行され、いくつかのステップが省略されます。カスタムインストール時には、ユーザーがパーティション設定を決定する必要があります。ユーザーがシステムにどのパッケージをインストールするかを総合的にコントロールすることができます。

カスタム-クラスインストールで推奨される最低必要なディスク容量は以下のようになります：

- カスタム(最小限): 300 MB
- カスタム(全てを選択): 2.4 GB

この時点でユーザーは、Red Hatインストールプログラムが要求する容量に対し、どれ程の追加領域が必要かを確認して、ディスク領域計画を決定しておく必要があります。また、必要な領域の取得先が仮想デスクか、物理ディスクか、又はその両方かを決定しておく必要があります。インストールを完了してしまうとパーティションのサイズ変更は、分裂状態を招きます。

2.5.3.1. カスタム-クラスインストールで行われること

名前から推測できるように、カスタム-クラスインストールでは柔軟性に重点が置かれます。カスタム-クラスインストール時にはパーティション設定を自由に決定することができます。ユーザーがシステムにどのパッケージをインストールするかを総合的にコントロールすることができます。

自分の目的に適合するインストールクラスを決定するために、以下のリストが役に立つはずですが、このリスト内の作業をするのが難しいと思われる場合は、このマニュアルを完全に読み、現在の難点を解決できるまでは、カスタム-クラスインストールは実行すべきではありません。

- パッケージの選択とインストール— このステップはパーティションが設定され、フォーマットが選択された後に実行されます。ここでは、パッケージグループ、個別のパッケージ、その両方の組合せ等を選択したり、あるいはすべてを選択して、インストールすることができます。

- 認証の設定— カスタム-クラスのインストール中に、認証設定を使用したネットワークパスワードを設定することができます。

パーティション設定を自動にするか、あるいは手動にするかの選択は重要です。自動パーティション設定を選択すると、カスタム-クラスのインストールはLinux LPARに関連した全てのディスク保存を削除して、次のようなパーティションに領域を配分してしまいます：

- 64 MBのスワップパーティション。
- 8 MBのPReP ブートパーティション。Linuxカーネル又は、ブートローダが収納されます。
- 自由サイズのルートパーティション(/としてマウントされる)。他のファイルがすべて収納されます。このサイズは利用可能なディスク容量によって決定されます。

手動パーティション設定を選択するとより幅広いコントロールを持ち、既存のディスク(ハードディスクパーティション)の一部を保存できます。これは、iSeries Linuxの論理パーティションインストールを再インストールする場合に、カスタム-クラスインストールで手動パーティション設定を選択する強力な理由となるでしょう。

Red Hat Linuxのインストール

本章では、CD-ROMからRed Hat Linuxをインストールする方法について説明します。解説する内容は以下のとおりです：

- インストールプログラムのユーザーインターフェイス
- インストールプログラムの起動
- インストール時の設定ステップ（言語、キーボード、マウスなど）
- インストールの終了

3.1. インストールプログラムのユーザーインターフェイス

このリリースのRed Hat Linuxは、テキストベースのインストールを特徴としています。マウスを使用したグラフィカルインストールは現時点では用意されていません。

Red Hat Linuxのテキストモードインストールプログラムは、画面単位のインターフェイスを採用し、グラフィカルユーザーインターフェイスで広く使われているスクリーンウィジェットをベースにしています。図3-1と図3-2でその画面を見ることができます。

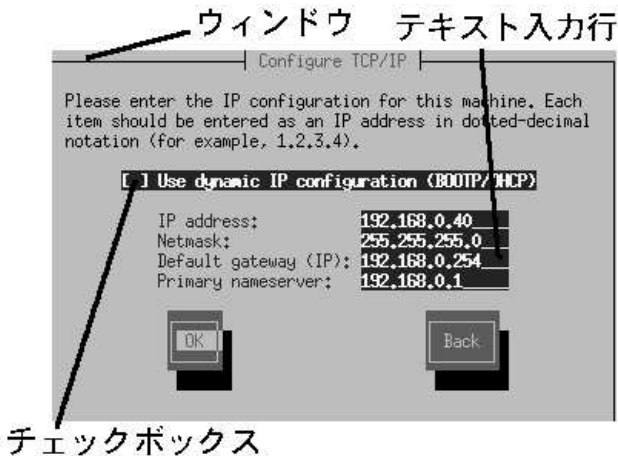


図3-1. インストールプログラムウィジェットの例TCP/IPの設定

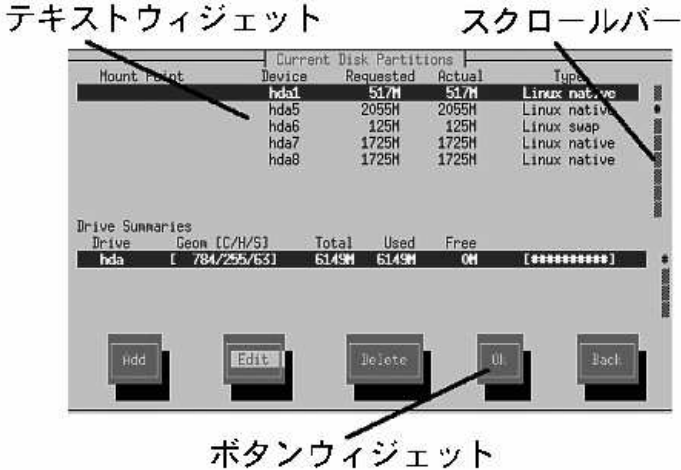


図3-2. インストールプログラムウィジェットの例Disk Druid

ここで、図3-1と図3-2の例にあるウィジェットの中から重要なものを説明します：

- ・ ウィンドウ—ウィンドウ(通常、このマニュアルの中では、ダイアログボックスと呼ばれます。)はインストールプロセス中ずっと、画面に出て来ます。時として、一つのウィンドウが他のウィンドウの上に重なることがあります。そんなときは一番表面のウィンドウが操作可能です。表面のウィンドウを終了すれば、消えますので、その裏にあったウィンドウを操作できます。
- ・ テキスト入力—テキスト入力のラインはインストールプログラムに要求されて情報を入力する領域です。カーソルがテキスト入力ライン上で止まっている時は、そのライン上で情報を入力したり、編集したりすることができます。
- ・ チェックボックス—チェックボックスではある項目を選択したり、また解除したりできます。ボックスがアスタリスク(*印)の時は選択されていて、空白は未選択を表示します。カーソルがチェックボックスの中にあるときは[Space]キーを押して未選択の項目を選択し、または選択項目なら解除します。
- ・ テキストウィジェット—テキストウィジェットはテキスト表示用の画面の領域です。ときにはテキストウィジェットは、チェックボックスなど他のウィジェットを含んでいることがあります。テキストウィジェットが設置されたスペース内に表示できない程多くの情報を持っているときにはスクロールバーが出て来できます。この場合、カーソルをテキストウィジェット内に位置した状態で、[上]キーと[下]キーの矢印キーを使えばその中の全ての情報をスクロールできます。自分の現在の位置は、スクロールすると同時に上下に動くスクロールバー上の#の文字で表示されます。
- ・ ボタンウィジェット—ボタンウィジェットはインストールプログラムとの対話型操作の基本となる操作手段です。[Tab]キーと[Enter]キーを使用してボタンを移動して行き、インストールプログラムのウィンドウを進んでいきます。ボタンが強調表示されている時は、そのボタンが選択されていて操作できます。
- ・ カーソル—カーソルはウィジェットではありませんが、特定のウィジェットでは選択(そして反応)する操作に使用されます。カーソルはウィジェットからウィジェットへ移動する時に、ウィジェットの色を変化させるか又は、ウィジェットの中から隣にカーソルが移動するだけのこともあり

ます。図3-1の中では、カーソルが**OK** ボタン上に位置しています。図3-2ではカーソルが**編集** ボタン上にあります。

3.1.1. キーボードでの操作

インストールダイアログ間の移動は、簡単なキー操作の組合せで実行できます。カーソルを動かすには、[左]キー、[右]キー、[上]キー、及び[下]キーの矢印キーを使用します。[Tab]キーと[Alt]キー-[Tab]キーを使用すれば画面上的のウィジェット間を前後に巡回できます。そして、ほとんどの場合、画面の下部にカーソル移動キーの説明があります。

ボタンを「押す」操作はカーソルをそのボタン上に移動して(例：[Tab] キーを使用して)、[Space]キーまたは[Enter]キーを押すことによって出来ます。項目リストから1つを選ぶには、カーソルをその項目に移動してから[Enter]キーを押します。チェックボックス内の項目を選択するのは、カーソルをその項目に移動して[Space]キーを押します。その選択を解除するにはその項目上でもう一度[Space]キーを押します。

[F12]キーを押せば、現在の値をそのまま採用して、次のダイアログへ進みます。これは**OK** ボタンを押すことと同じ効果です。



用心

インストールプロセス中、ダイアログボックスが入力待ちになっている時以外は、キーに触れないようにして下さい。(触れると予期しない結果を招くことがあります)。

3.2. インストールプログラムの起動

CD-ROMドライブにインストールCDを挿入します。OS/400がCDを参照する為のボリューム名を決めて下さい。これはOS/400コマンドラインで、`wrklnk '/qopt/*'` コマンドを実行することで見付けることが出来ます。他のドライブ内に同じラベルを持つ別のCDがない限りは、ボリューム名はRed_Hatです。ボリューム名がタイムスタンプを含んでいる場合(名前の対立があると発生)、CDのイジェクトと再挿入するとボリューム名の変更となり、再度その名前を決定する必要が出て来ることに注意して下さい。

SCSIディスクにインストールする場合、ibmsisドライバーCD-ROMのコピーが必要になります。もし、ターゲットのLPARに複数のCD-ROMドライブを使用出来るなら、そのLPAR用に、どのCD-ROMドライブがI番目のCD-ROMドライブ(/dev/vcda)になるのかを決定しなければなりません。この決定法についてはIBMのマニュアルを参照してください。インストールプログラムから指示された時に1番目のCD-ROMドライブにドライバーディスクを挿入します。

NWSをオフに構成変更します。

NWS記述を編集します。IPL sourceオプションを*STMFに設定します。

IPL stream fileオプションを/QOPT/RED_HAT/PPC/ISERIES/VMLINUX (大文字/小文字は無視)に設定します；ここでRED_HATとは/QOPT以下にあるCDボリュームの名前です。

ドライバーディスクを使用している場合は、IPLパラメータオプションを'dd'(引用も含む)に設定します。そうでなければ、オプションは*NONEに設定します。

LPARの仮想コンソールに接続する為にtelnetクライアントを使用します。プロンプトが出たら、操作したいパーティションを選択し、OS/400のサービスツールのユーザーidとパスワードを入力します。

NWSをオンに構成変更します。数秒で仮想コンソール上にブートシーケンスが表示されます。インストールプログラムは自動的に開始されます。

3.3. ドライバーディスクの使用

ドライバーディスクがあるかどうか尋ねられることがあります。尋ねられない場合は、そのまま項3.4へ進んで下さい。

ドライバーディスクからドライバーをロードする必要がない場合は、ドライバーディスクの質問に対していいえと答えて項3.4へ進んで下さい。

ドライバーディスクを指定している場合(IPLパラメータを'**dd**'に設定)、最初にドライバーディスクがあるかどうか尋ねられます。これには**はい**と答えます。インストールプログラムがドライバーディスクを挿入するように指示した時に、それを1番目のCD-ROMドライブに入れ**OK**を選択します。インストールプログラムがドライバーディスクを取り出すように指示すると、取り出して、必要ならインストールディスクを入れて**OK**を選択します。



用心

ドライバーディスクを挿入する為にインストールディスクを取り出していた場合は、ドライバーディスクを取り出すように指示が出たときに、インストールディスクを再度、挿入してから**OK**を選択します。

3.4. 言語の選択

[上]キーと[下]キーを使用してインストール中に使用し、システムのデフォルト言語として使用する言語を選択します。(図3-3を参照)

適切な言語選択は、インストールの後半で設定するタイムゾーンを決めるのにも役に立ちます。インストールプログラムは、この画面上に指定された言語に基づいて適切なタイムゾーンを定義しようと試みます。

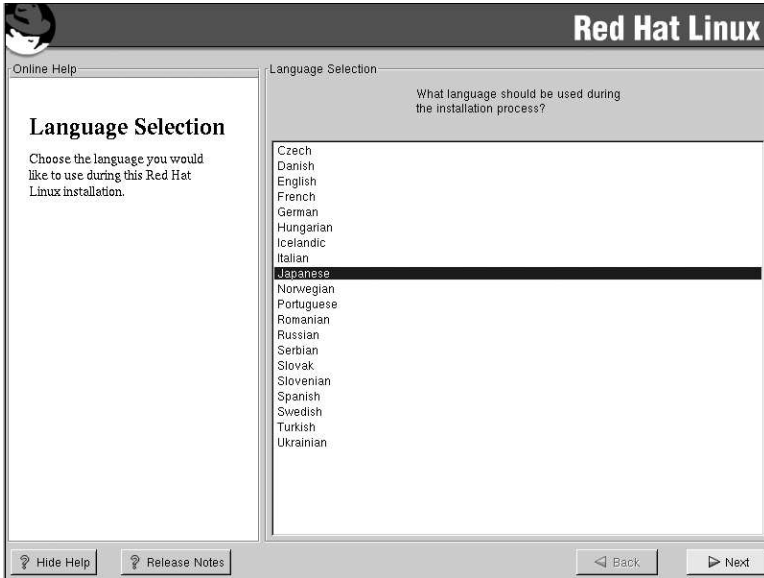


図3-3. 言語の選択

選択が決定したら[Enter]キーを押します。

リストの右側にスクロールバーが出て来ます。これは画面の中に表示できる量以上のエントリが存在することを示します。インストールプログラム全体を通して、他にもこのようなスクロールバーが出て来ます。

3.5. Red Hat Linuxへようこそ

ようこそ画面は何も入力を要求しません。



図3-4. ようこそ画面

OKボタンを押して、[Enter]キーを押すと次へ進みます。

3.6. インストールのオプション

Red Hat Linux では目的に最も適したインストールタイプを選択することができます。選択オプションはワークステーション、サーバ及びカスタムです。

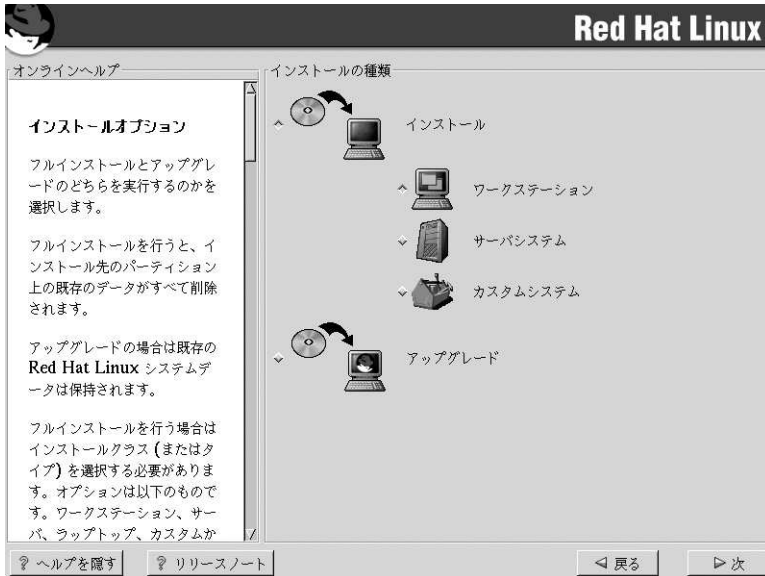


図3-5. インストール又はアップグレードの選択

3.7. ディスクパーティションの設定

自動パーティション設定を使用するとユーザーが自分でドライブのパーティションを設定することなくインストールが実行されます。システムのパーティション設定が面倒だと思われる場合は、手動のパーティション設定は選択せず、代わりにインストールプログラムにパーティション設定を任せて下さい。

どのようにパーティション設定をすべきか不明な場合は、付録Cを読んで、その後オフィシャル *Red Hat Linux 参照ガイド* 中のディスクパーティションの概要をお読み下さい。LILOとIntel関連のBIOSのセクションは無視できます。



図3-6. ディスクパーティションの設定

**警告**

自動パーティション設定を使用したワークステーション- 又はカスタム-クラスインストールは、現在のLinux LPARに関連した仮想又は物理ディスク内のLinuxディスクパーティション上の全てのデータを削除します。このデータを保存する方法は、付録Cで御覧ください。

**警告**

自動パーティション設定を使用したサーバクラスインストールは現在のLinux LPARに関連した全てのディスク記憶装置(仮想又は物理)を削除します。このデータを保存する方法は、付録Cで御覧ください。

**注意**

自動パーティション設定オプションが表示されない場合は、このインストールオプションに使用できる空き領域が十分でないこととなります。このインストールオプションを終了して、領域を増加させるか、あるいは手動でパーティション設定をすることが出来ます。

自動パーティション設定した場合は、項3.11へ進んで下さい。

自動パーティション設定を選択しない場合、ディスクパーティション設定のセクションで**Disk Druid**の選択が強く推奨されます。

fdiskの使用をお好みの場合、従うべき規則が幾つかあります。

- ルートパーティションは、1番目のディスクの最初のパーティションであること。
- *NWSSTG IPLが使用されない場合、1番目のディスクはブート可能(アクティブ)のマークを付けたタイプPRePブートのプライマリパーティションであること。PRePブートパーティションは8 MBであること。

手動パーティション設定を選択する場合、2つのパーティション設定ツール、**Disk Druid**と**fdisk**から選択する画面が表示されます。(図3-7を参照)。

1部又は全てのデータを失いたくない場合は、手動パーティション設定を選択するか、又は、別のインストールクラスを選択して下さい。

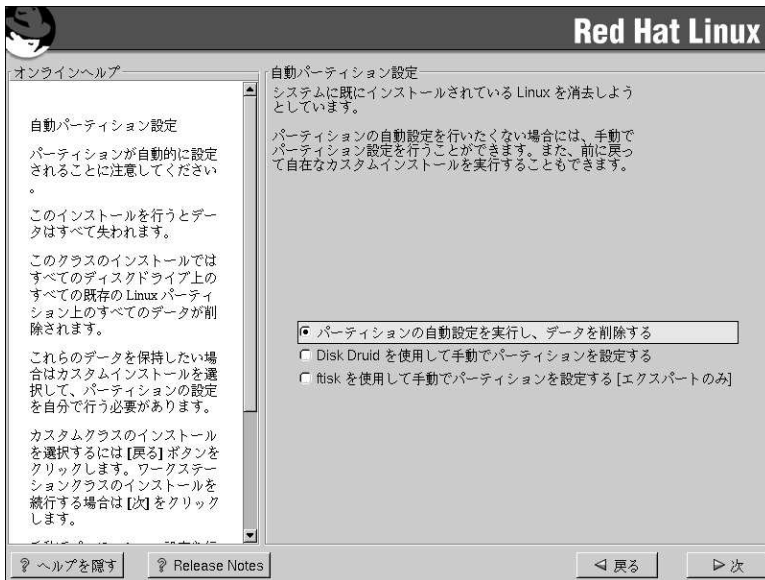


図3-7. ディスクパーティションの設定

3.8. システムのパーティション設定

自動パーティション設定を選択した場合は、直接項3.11へ進んで下さい。

fdiskで手動パーティション設定を選択した場合は、直接項3.9へ進んでください。

ここで、インストールプログラムに対してRed Hat Linuxをどこにインストールするかを指定する必要があります。これはRed Hat Linuxがインストールされる1つ又は複数のパーティションにマウントポイントを定義づけることで達成されます。この時、パーティションを作成/削除の操作をする必要がでる可能性があります。(図3-8を参照)。



注意

どのようにパーティションを構成するかまだ計画していない場合は、付録CとオフィシャルRed Hat Linux 参照ガイドの付録でパーティション設定の部分を参照して下さい。LILOとIntel関連のBIOSのセクションは無視できます。



図3-8. Disk Druidによるパーティション設定

Red Hat Linux 7.1で使用されるパーティション設定ツールはDisk Druidです。難解な状況を除いては、Disk Druidで標準的なRed Hat Linuxインストールのパーティション設定を処理することが出来ます。

3.8.1. パーティションフィールド

パーティションセクション内の各行は、1つのパーティションを表示します。このセクションの各行は5つの異なるフィールドを持ちます：

- **マウントポイント:** マウントポイントはディレクトリツリーの中で、ボリュームが存在する場所です。ボリュームはこの場所で「マウント」されます。このフィールドはパーティションがマウントされる位置を示します。パーティションが存在していてまだ、セットされていない時は、そのマウントポイントを定義づけする必要があります。そのパーティションをダブルクリックするか、又は、**編集**ボタンをクリックします。
- **デバイス:** このフィールドはパーティションのデバイス名を表示します。
- **要求:** このフィールドはパーティションのオリジナルサイズを示します。パーティションのサイズを再構成するには、現在のパーティションを削除して**追加**ボタンを使用して作り直す必要があります。
- **実際:** このフィールドは現在のパーティションに割り当てられた容量を示します。
- **タイプ:** このフィールドはパーティションのタイプを示します。(例えば、Linux Native 又はDOS)。

3.8.2. パーティション設定に関する推奨事項

他の方法で実行する理由がない限り、以下のようなパーティション設定が推奨されます：

- **スワップパーティション(RAMの2倍)** — スワップパーティションは仮想メモリをサポートするのに使用されます。つまりシステムが処理中のデータを保存するだけのメモリサイズがない場合に、データはスワップパーティションに書き込まれます。コンピュータが16 MB又はそれ以下のRAMを使用している場合、スワップパーティションを作成しなければなりません。これ以上のメモリがある場合でも、スワップパーティションが推奨されます。スワップパーティションの最小サイズはコンピュータのメモリサイズに等しいサイズです。しかしスワップはRAMの2倍にするよう推奨されます。**Disk Druid**ではスワップのパーティションフィールドは以下のようになります：

```
<Swap> hda6 64M 64M Linux swap
```

- **ルートパーティション(1.2-2.4 GB)** — ここが「/」(ルートディレクトリ)のある場所です。この設定では、全てのファイルはこのルートパーティションに存在します。1.2 GBのルートパーティションはワークステーションクラスインストール(かなり限定された空き容量)を受け入れるのに対し、2.4 GBのルートパーティションでは全てのパッケージをインストールすることが出来ます。**Disk Druid**では、/のパーティションフィールドは以下のようになります：

```
/ hda5 3734M 3734M Linux native
```

3.8.3. パーティションを追加する場合の問題

パーティションを追加しようとして**Disk Druid**が要求を処理できない場合は、その時点で未割り当てのパーティションを示すダイアログボックスと割り当て出来ない理由が表示されます。未割り当てのパーティションはまた、**Disk Druid**のメイン画面でも表示されます。(ただし、パーティション画面をスクロールする必要がある場合もあります)。

パーティションセクションをスクロールすると、そこに**未割り当ての要求パーティション**という赤いテキストメッセージと、その後1つ又は複数のパーティションが表示されます。その一般的な理由は、パーティションでの空き領域の不足です。このような状態では、パーティションが未割り当てである理由とパーティションの要求されたマウントポイントが表示されます。

要求パーティションの未割り当て状態を解決するには、そのパーティションを十分な空き領域を持つ他のドライブに移動するか、現在のドライブ上でパーティションサイズを変更するか、又はそのパーティションを削除します。変更するには**編集**ボタンを押します。

3.8.4. ドライブの説明

ドライブの説明セクションの各行は、システム上のハードディスクを表しています。各行には、次のフィールドがあります：

- **ドライブ**: ハードディスクのデバイス名を示します。
- **ジオメトリ[C/H/S]**: ハードディスクのジオメトリを示します。ジオメトリはハードディスクが報告したシリンダ、ヘッド、セクタの数を示す3つの数字で構成されています。
- **合計**: ハードディスクの使用可能な領域の総量をMバイト単位で示します。
- **使用**: 現在パーティションに割り当て済みのハードディスク領域の総量をMバイト単位とパーセンテージ(%)で示します。
- **空き**: 未割当のハードディスク領域の総量をMバイトで示します。

ドライブの説明セクションは、コンピュータのディスク設定を示す目的でだけ表示されます。つまり、ここで対象のハードディスクを特定のパーティションに指定できるわけではありません。ドライブを指定するには、項3.8.6の中の**選択可能なドライブ**を使用します。

3.8.5. Disk Druidのボタン

これらのボタンは**Disk Druid**のアクションを制御します。パーティションの追加や削除、パーティション属性の変更などに使用されます。この画面には変更を受け入れたり、**Disk Druid**を終了したりするためのボタンもあります。各ボタンについて順番に詳しく説明します。

- **追加**: 新しいパーティションを要求するために使います。このボタンをクリックすると、マウントポイントやサイズなどを入力するダイアログボックスが開きます。
- **編集**: パーティションセクションで現在選択されているパーティションの属性を変更する為に使います。編集をクリックするとダイアログボックスが開きます。パーティション情報がすでにディスクに書き込まれているかどうかに応じて、1部又は全てのフィールドを編集できます。
- **削除**: 現在のディスクパーティションセクションで現在選択されているパーティションを削除するために使います。パーティションの削除を確認するメッセージが表示されます。
- **Ok**: 現在の設定を確定して、インストールプロセスの次へすすみます。
- **戻る**: 現在の変更を保存せずに以前の画面に戻る時に使用します。

3.8.6. パーティションの追加

新たにパーティションを追加するには、**追加**ボタンを押します。ダイアログボックスが開きます。



注意

最低2つのパーティションをRed Hat Linux専用とする必要があります。(/ (ルート)とスワップ)それ以外は任意に追加できます。これに関しては、オフィシャルRed Hat Linux 参照ガイドの付録ディスクパーティションの概要により詳しい説明があります。

- **マウントポイント**:パーティションのマウントポイントを選択して入力します。例えば、現在のパーティションをルートパーティションにする場合は、 / と入力します。

- **容量(メガバイト):** パーティションのサイズ(メガバイト単位)を入力します。フィールドの初期値が「1」になっていることに注意して下さい。変更しない場合、1Mバイトのパーティションになります。
- **残りの領域を使用:** このチェックボックスは、直前のフィールドに入力されたサイズをパーティションの確定サイズと見なすか、最小サイズと見なすかを指定します。選択するとパーティションは拡大してハードディスクの使用可能容量をすべて使います。パーティションサイズは他のパーティションサイズの変更に伴って増減されます。複数のパーティションを拡大可能にすることができます。その場合は、拡大可能なすべてのパーティションが追加の空き容量を等分して使用します。**OK**ボタンを選択してパーティションを作成するまでは、最終パーティションサイズは確定していません。
- **パーティションタイプ:** このフィールドには、さまざまなパーティションタイプ(Linux NativeやDOSなど)のリストが表示されます。
- **選択可能なドライブ:** このフィールドには、システムにインストール済のハードディスクが表示されます。ハードディスクのボックスが強調表示されている場合は、そのハードディスク上にパーティションを作成できます。ボックスが選択されていない場合は、そのハードディスク上にパーティションを作成することはできません。別のチェックボックス設定値を使うと、**Disk Druid**によって適したパーティションを配置したり、**Disk Druid**にパーティションの配置先を決定させたりすることが出来ます。
- **Ok:** 設定に満足で、そのパーティションを作成する場合に**Ok**を選択します。
- **取り消し:** パーティションを作成しない場合は、**取り消し**を選択します。

3.8.7. パーティションの編集

パーティションを編集するには、**編集** ボタンを選択するかまたはそのパーティション上でダブルクリックします。



注意

ハードディスク上にすでにパーティションが存在する場合は、パーティションのマウントポイントを変更することはできません。他の変更をしたい場合は、1度パーティションを削除して、再構成する必要があります。

3.8.8. パーティションの削除

パーティションを削除するには、そのパーティションセクションを強調表示して**削除**ボタンをクリックします。すると削除を確認するように要求されます。

より詳しいインストール法の案内については、項3.10に進んでください。

3.9. fdiskを使ったパーティション設定

ここでは、**fdisk**を使ってシステムにパーティションの設定をする場合についてのみ説明します。**fdisk**を使用しない場合、自動パーティション用には項3.7へ進み、**Disk Druid**を使用したパーティション設定には項3.8へ進んで下さい。

fdiskの使用をお好みの場合、従うべき規則が幾つかあります。

- ルートパーティションは、1番目のディスクの最初のパーティションであること。

- *NWSSTG IPLが使用されない場合、1番目のディスクはブート可能(アクティブ)のマークを付けたタイプPRePブートのプライマリパーティションであること。PRePブートパーティションは8 MBであること。



用心

以前に**fdisk**を使用した経験があり、さらにその動作を理解している場合以外、**fdisk**をお勧めできません。

Disk Druidは**fdisk**よりも簡単に理解できます。**fdisk**を終了するには、**戻る** ボタンを押して、元の画面に戻ります。そこで**fdisk**の選択を解除して次のボタンを押します。

fdiskの使用を選択すると、次の画面で**fdisk**を使ってパーティション設定をするドライブを選択するように要求されます。

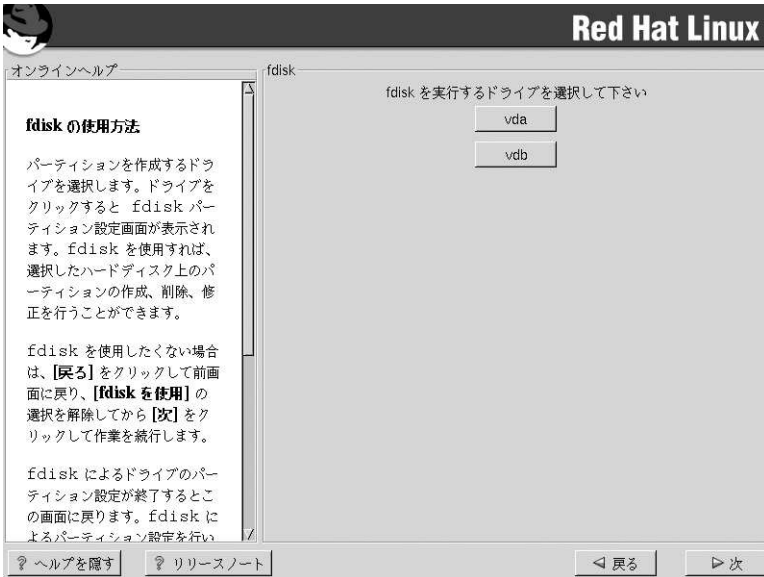


図3-9. fdiskを使ったパーティション設定

パーティション対象のドライブを選択すると、**fdisk**コマンドの画面が開きます。使用するコマンドが判らない場合は、プロンプトで[m]とタイプするとヘルプが表示されます。

パーティションの作成が完了したら、[w]とタイプして設定内容を保存して終了します。元の**fdisk**画面に戻りますので、ここで別のドライブをパーティション設定するか、インストールの続行するかを選択できます。

**注意**

変更はwコマンドを使用して、それを保存し**fdisk**を終了するまで反映されません。qコマンドを使用すると、変更を保存せずにいつでも**fdisk**を終了することができます。

**用心**

Intelシステムとは違って、iSeriesのLinuxパーティションはPReP ブートパーティションからブートされなければなりません。PReP ブートパーティションを作成して、a オプションでアクティブにする必要があります。これが実行されないといnstallが正常に終了しても結果的にシステムがブート不可になる可能性があります。

ドライブのパーティションが完了したら、**次**のボタンをクリックします。次に**Disk Druid**を使って、**fdisk**で作成したパーティションにマウントポイントを割り当てます。

ここでは**Disk Druid**を使って新しいパーティションを追加することは出来ません。ただし、すでに作成済みのパーティションのマウントポイントを編集することは出来ます。

fdiskで作成したパーティションごとに、**編集** ボタンをクリックし、プルダウンメニューから該当するマウントポイントを選択して**OK** ボタンをクリックします。

3.10. パーティションのフォーマット

パーティションを作成したら、次にそれらをフォーマットする必要があります。フォーマットするパーティションを選択して下さい。新たに作成したパーティションはフォーマットしなければなりません。また不要なデータが格納されているパーティションもフォーマットすると良いでしょう。ただし、/homeや/usr/localなどのパーティションに、残しておきたいデータがある場合は、フォーマットしてはいけません。(図3-10を参照)

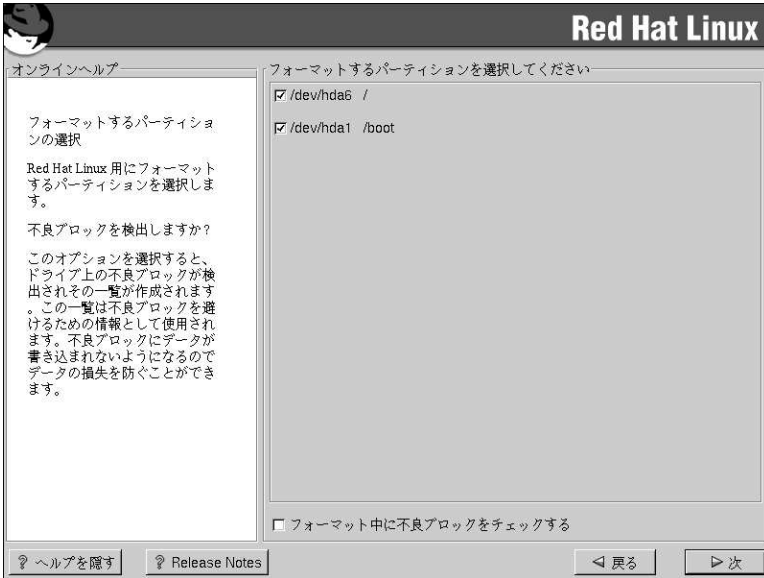


図3-10. フォーマットするパーティションの選択



注意

仮想ディスクでは、不良ブロックのチェックはする必要がありません。

各ファイルシステムのフォーマット中に不良ブロックを検査する場合は、必ずフォーマット中に**不良ブロックをチェック**チェックボックスを選択して下さい。不良ブロックの検査では、ドライブの不良ブロックを検出し、今後使用を避けるべきブロックのリストを作成します。これはデータ損失を防ぐのに役立ちます。

3.11. ネットワークの設定

物理LANカード、あるいは仮想LANがない場合は、この画面は表示されません。そのまま次のセクション項3.16へ進んで下さい。

物理LANカード、あるいは仮想LANがあるが、まだネットワークの設定が済んでいない場合は、ここで設定することが出来ます。(図3-11を参照)。

複数のLANのインターフェイスがLPARに割り当てられている場合、このダイアログボックスはプライマリインターフェイスを設定します。後で他のツールを設定できるように、これで**設定**などのツールを有効にします。他のネットワークインターフェイスはsetupコマンドを使用して、インストール後に設定することが出来ます。

bootp/dhcp を使用して IP アドレスを設定するかどうかを選択します。DHCP クライアントのアクセス権がない場合や、ここに何を入力すればよいか分からない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

bootp/dhcp を使用する場合は、ユーザーの LAN 上の既存サーバが動的に、接続時にネットワークにシステムを追加するのに必要なネットワーク関連の情報を供給します(この場合、基本的に DHCP と BOOTP が空欄を埋めるため、このダイアログの残りのフィールドは操作不要になります)。

bootp/dhcp を使用しない場合、該当する場所に IP アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイ(IP)、1 番目のネームサーバ、2 番目のネームサーバ、そして Ternary ネームサーバを入力します。これらのいずれかが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで入力する情報は静的なネットワーク情報です。この場合、供給されたネットワーク情報はこのコンピュータに永久的に割り当てられます。

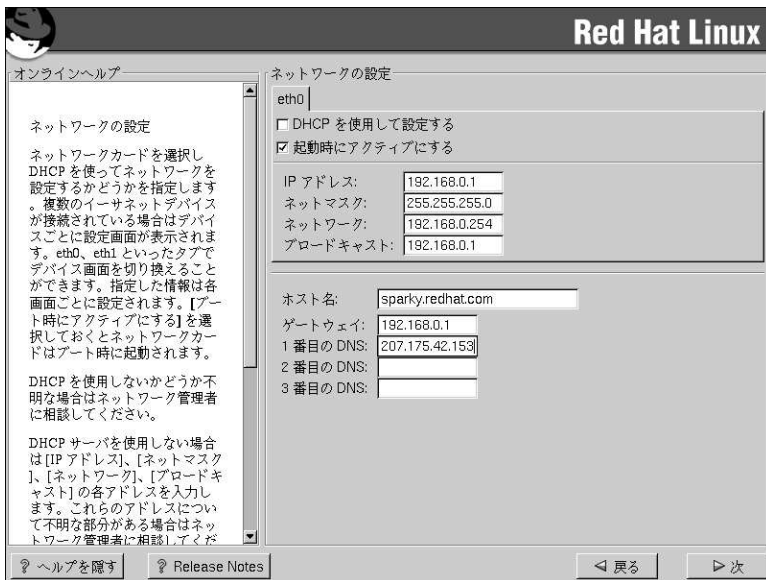


図3-11. ネットワークの設定

3.12. ホスト名の設定

ホスト名の設定のダイアログがコンピュータ用の名前(ホスト名と呼ばれます)を入力するように要求します。



図3-12. ホスト名の設定

コンピュータ内にネットワークカードがあれば、完全修飾ドメイン名を以下の形式で入力します:

```
hostname.domain.name
```

この例では、ホスト名はコンピュータ用に選択した名前、ドメイン名はTCP/IPドメインです。(ドメイン名は例えば、`eastcoast.mainserver.redhat.com`と`westcoast.mainserver.redhat.com`の様に複数のノードを含むことが出来ます)。

コンピュータがネットワークの1部でない場合でも、システムのホスト名は入力することが出来ます。この機会に名前を1つ入力して下さい。名前を入力しなかった場合、ホスト名は`localhost`になります。



ヒント

システムをリポートした後にホスト名を変更する場合は、先ず`root`になります。ターミナルの`root`プロンプトで、`hostnameewname` とタイプします。ここで`newname`には好みのホスト名を入力します。簡単にホスト名を画面に表示したい時は、`hostname` とタイプするとシステムに設定したホスト名が表示されます。

3.13. ファイアウォールの設定

Red Hat Linux にはシステムセキュリティを強化するファイアウォールプロテクションもあります。ファイアウォールは、コンピュータをネットワークの間に存在し、ネットワーク上のリモートユーザーがこちら側のコンピュータ上のどのリソースにアクセスできるかを決定します。ファイアウォールが適切に設定されていれば、システムのセキュリティは大幅に向上します。

システムに適切なセキュリティレベルを選択します。



図3-13. ファイアウォールの設定

高

高を選択すると、システムは(デフォルト設定を除く)ユーザーによって明確に指定されていない接続は受け付けません。デフォルトでは次の接続のみが許可されます：

- DNS 応答
- DHCP — DHCP を使用するネットワークインターフェイスは正しく設定されます。

高を選択すると、ファイアウォールの次の物を拒否します：

- アクティブモードのFTP (大半のクライアントでデフォルト使用になっているパッシブモードのFTPは動作します)。
- IRC DCC ファイル転送
- Secure Shell (SSH)
- リモートX Window System クライアント

システムをインターネットに接続はしているが、サーバを稼働する予定がない場合は、これが最も安全な選択です。追加のサービスが必要な場合は、**カスタマイズ**を選択して特定のサービスだけにファイアウォールを通過させることができます。

中

中を選択すると、ファイアウォールは、リモートマシンによるシステムの特定のリソースへのアクセスを許可しません。デフォルトでは次のようなりソースが許可されません：

- 1023未満のポート— 標準の予約済のポート。**FTP, SSH, telnet, HTTP**などのほとんどのシステムサービスによって使用されます。
- NFS サーバポート(2049)
- リモートXクライアント用のローカルX Window System ディスプレー
- X フォントサーバポート(デフォルトでは、**xfs**はネットワーク上でリッスンをせず、フォントサーバ内で無効です)。

普通のシステムサービスへのアクセスをブロックしている間に、Secure Shell (SSH)などのリソースを許可したい場合は、**中**を選択して、**カスタム**を選択すると、指定のサービスのみファイアウォールを通過させることができます。

ファイアウォールなし

「ファイアウォールなし」を選択すると、システムに完全なアクセスを許すことになり、セキュリティチェックがありません。セキュリティチェックは一定のサービスに対するアクセスを無効化します。これは、信頼できるネットワーク(インターネットではない)上で稼働しているか又は、後でファイアウォール設定を計画している時のみに選択すべきです。

カスタマイズを選択すると、信頼できるデバイスを追加したり、他の到着するサービスを許可することができます。

信頼するデバイス

信頼するデバイスの中のいずれかを選択すると、そのデバイスはファイアウォールの規定から除外されて、そのデバイスからの通信はすべてシステムにアクセスできます。例えば、ローカルネットワークを稼働しているが、PPPダイヤルアップでインターネットに接続している場合、**eth0**をチェックすると、ローカルネットワークからのすべての通信は許可されます。**eth0**を信頼できるデバイスとして選択すると、イーサネット上にすべての通信が許可されることとなりますが、**ppp0**のインターフェイスはまだ、ファイアウォールでブロックされています。あるインターフェイス上の通信を制限したい場合は、チェックは入れない(未選択の)ままにしてください。

インターネットなど公開ネットワークに接続してあるデバイスを**信頼するデバイス**とすることは推奨できません。

侵入を許可

このオプションを有効にすることは、特定のサービスにファイアウォールの通過を許可することになります。ワークステーションのインストール中には、これらのサービスのほとんどはシステムにインストールされていないことに注意してください。

DHCP

到着するDHCP照会と応答を許可すると、IPアドレスの決定にDHCPを使用するネットワークインターフェイスはどれも許可することになります。通常DHCPは有効になっていません。DHCPが有効になっていない場合は、コンピュータはIPアドレスを取得することができません。

SSH

- Secure *Shell* (SSH) はリモートマシンにログインしてコマンドを実行するためのツール群です。SSHツールを使用してファイアウォールを通過してマシンのアクセスを計画している場合は、このオプションを有効にします。SSHツールを使用してリモートマシンにアクセスするには`openssh-server`パッケージがインストールされている必要があります。

Telnet

- Telnetはリモートマシンにログインするためのプロトコルです。Telnet通信は暗号化されず、ネットワーク盗聴に対して安全ではありません。外来のTelnetアクセスを許可することは推奨できません。外来のTelnetアクセスを許可したい場合は`telnet-server`パッケージをインストールする必要があります。

WWW (HTTP)

- HTTP プロトコルはwebページを提供するために、Apache (及び、他のWebサーバ)によって使用されます。Webサーバを公開する計画の場合は、このオプションを有効にします。ローカルのwebページを見たり、webページの開発したりする場合は、このオプションは必要ありません。webページを提供するためには`apache`パッケージをインストールする必要があります。

Mail (SMTP)

- ファイアウォールを通過して受信メールの配信を許可したい場合は、このオプションを有効にします。有効な場合、リモートホストはメール配信するために直接こちらのマシンに接続できます。POP3 やIMAPを使用してISP サーバからメールを引き取ったり、又は、`fetchmail`などのツールを使用している場合はこのオプションは有効にする必要がありません。不適切な設定のSMTPサーバは、リモートマシンがこちらのサーバを使用してスパムメール送信できるような許可をする可能性があることに注意して下さい。

FTP

- FTP プロトコルはネットワーク上のマシンの間でのファイル転送に使用されます。自分のFTPサーバを公開する予定が有る場合は、このオプションを有効にします。このオプションを活用するには`wu-ftpd` (必要に応じて`anonftpd`)をインストールする必要があります。

他のポート

- 他のポートフィールドにポートを登録することによって、このリストにないポートにアクセスを許可することができます。使用するフォーマットは`port:protocol`です。例えば、IMAPにファイアウォールを越えてアクセスを許可する場合は、`imap:tcp`と指定します。また、ポート番号を明確に指定することもできます。ファイアウォールを越えてポート1234上にUDPパケットを許可するには、`1234:udp`と入力します。複数のポートを指定する場合は、コンマで区切ります。

3.14. マウスの設定



図3-14. マウスの選択

マウスのタイプを選択するように要求されます。**none(なし)**を選択して下さい。

3.15. 言語サポートの選択

Red Hat Linux ではシステム上に複数の言語環境をインストールして使用することができます。

まずデフォルトの言語として使用する言語を選択します。デフォルトの言語はインストールが完了するとRed Hat Linuxのシステムで使用されます。複数言語をインストールすると、インストールの後でもデフォルトの言語を変更できます。



図3-15. 言語サポートの選択

システムで1つの言語しか使用しない場合は、その言語だけを選択することにより、ディスク領域を節約できます。デフォルトの言語は、インストール時に選択した言語です。ただし、1つの言語しか選択しなかった場合は、Red Hat Linux インストール完了後も使用できる言語はその言語だけとなります。

システムで複数の言語を使用する場合は、インストールする言語を個別に選択するか、すべての言語を選択して利用可能なすべての言語を Red Hat Linux システムにインストールします。

選択を取り消す場合は、リセットボタンを使用します。リセットすると、設定はデフォルトに戻ります。インストール時使用の為に選択した言語だけがインストールされます。

3.16. タイムゾーンの設定

タイムゾーンの設定は、コンピュータの物理的位置で設定することができます。

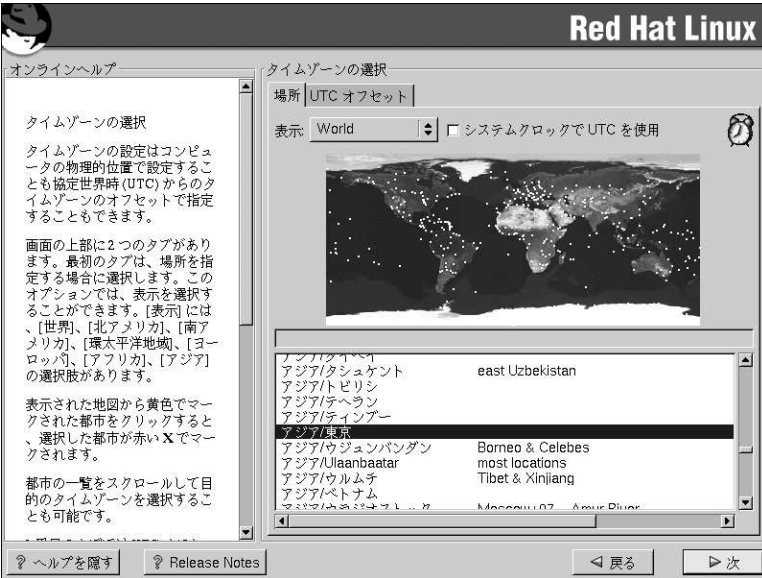


図3-16. タイムゾーンの設定

ハードウェア(CMOS)クロックを、GMT(Greenwich Mean Timeまたは、UTCと呼ばれる世界協定時間)にセットしたい場合は、**ハードウェアクロックをGMTに合わせて設定する**を選択します。GMTにセットするということは、ユーザーのゾーンが夏時間を使用する場合は、それを適切に処理することになります。

一覧からタイムゾーンを選択して[Enter]キーを押します。



ヒント

Red Hat Linuxシステムをブートした後でタイムゾーン設定を変更したい場合は、**root**になり、`/usr/sbin/timeconfig`コマンドを実行します。

3.17. アカウントの設定

Rootパスワードの画面でユーザーのrootパスワードを設定します(図3-17を参照)。



図3-17. Rootパスワード

rootアカウントとrootパスワードの設定は、インストール時の最も重要なステップの1つです。rootアカウントはWindows NTマシンで設定する管理者アカウントに似ています。rootアカウントは、パッケージのインストール、RPMのアップグレード、ほとんどのシステムの保守の為に使います。rootでログインするとシステムに対して全面的な制御をする権限を持つことになります。

rootアカウントの使用はシステム管理のみにします。通常の使用にはroot以外のアカウントを作成して、何かを緊急に修復する場合に、su -でrootに入ります。これらの基本的な規則に従えば、入力ミスや間違ったコマンドがシステムに与える影響を最小限に抑えることができます。

インストールプログラムがシステム用にrootパスワードを設定するように要求してきます。¹この時点で、rootパスワードを入力する必要があります。rootパスワードを設定しない限り、インストールプログラムは次のセクションへ進行しません。

rootパスワードは最低6文字の長さが必要で、入力するパスワードは画面に表示されません。パスワードは2回入力します。2つのパスワードが一致しないときはもう1度入力しなおす必要があります。

rootパスワードは何か自分で覚えやすいものにします。しかしそれは他の人が簡単に想像できるものではないけません。自分の名前、電話番号、*qwerty* (キーボードの1列の字)、*password*, *root*, *123456*, *anteater*などはすべて、悪いパスワードの例です。良いパスワードとは、数字、大文字、小文字が混ざった構成で、また辞書にあるような単語を含まない物です。例としては、*Aard387vark* または *420BmtNT* などです。パスワードは大文字/小文字が区別されることに注意して下さい。もしパスワードを書き留めるのでしたら、安全な場所に保管して下さい。しかし、どんなパスワードでも書き留めないことを推奨します。

1. rootパスワードはRed Hat Linux システム用の管理者パスワードです。rootパスワードを使用するのはシステムの保守が必要な時だけにしてください。rootアカウントは一般のユーザーに適用されている制限に関係なく操作ができるため、rootとして加える変更はシステム全体に影響を与える可能性があります。



注意

このマニュアルに示してあるパスワードは使用しないで下さい。これを使用することはセキュリティ上、問題があると考えられます。



注意

root ユーザー(スーパーユーザーとも呼びます。)はシステム全体にアクセスをすることができます。この理由でroot ユーザーとしてのログインはシステムの保守または管理を実行するときのみにして下さい。

3.17.1. ユーザーアカウントの設定

ここでユーザーアカウントを設定するように選択した場合は、インストールが完了した時点でログインするアカウントを持つこととなります。この設定をしておくこと、後でrootでアカウントの作成し直すことなく、そのまま安全にそして簡単にコンピュータにログインすることができます。

アカウント名(ユーザー名)を入力します。そして、そのユーザーアカウント用のパスワードを入力して、もう一度確認の為のパスワードをいれます。そのアカウントを持つユーザーのフルネームを入力します。情報が正常に入力できたらOKボタンを選択して、[Enter]キーを押します。

新規ユーザの追加

ユーザ名:

名前:

パスワード:

確認:

ユーザ名を入力してください

OK キャンセル

図3-18. ユーザーの追加

ユーザーアカウントが設定されると、ユーザーアカウントの設定の画面で入力されたアカウントが表示されます。



図3-19. ユーザーアカウントの設定

追加ボタンを選択すると新規のユーザーアカウントが設定できます。

また、作成済や不要なユーザーアカウントを編集したり、削除したりすることもできます。

3.18. 認証の設定

ワークステーション-又はサーバクラスのインストールをしている場合は、項3.19へ進んで下さい。

ネットワークパスワードを設定しない場合は、このセクションを飛ばすことができます。設定を実行すべきかどうか分からない時は、システム管理者に尋ねて下さい。

NIS の認証設定をしている場合を除いては、MD5とシャドウ パスワードだけが選択されています。(図3-20を参照して下さい。) 御使用のマシンのセキュリティをできるだけ確保するために、両方のパスワードの使用を推奨します。

NIS オプションを設定するには、NIS ネットワークに接続する必要があります。もし自分がNIS ネットワークに接続されているかどうか不明な場合は、システム管理者に尋ねて下さい。

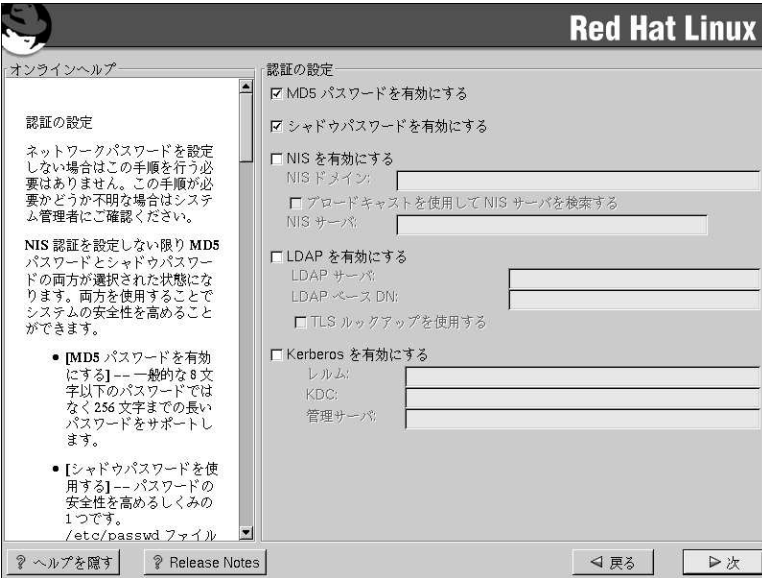


図3-20. 認証の設定

- **シャドウパスワードを有効にする**を選択すると、パスワードを保護する安全な手段を提供します。パスワードは `/etc/shadow`に保存され、`root`ユーザしかアクセスできません。
- **MD5パスワードを有効にする**を選択すると、標準の8文字以下のパスワードの代わりに、長いパスワード(最大256文字まで)の使用が可能になります。
- **NISを有効にする**を選択すると、同じネットワークインフォメーションサービスドメイン内の複数のコンピュータが共通パスワードとグループファイルを共有できるようになります。以下のオプションから選択できます：
 - **NIS ドメイン** では、コンピュータが所属するドメイン又はコンピュータグループを指定します。
 - **NIS サーバ**では、コンピュータが特定のサーバを使用するように指定します。LANにメッセージをブロードキャストして、ホストサーバを探す必要がありません。
- **LDAPを有効にする**を選択すると、1部又は全ての認証にLDAPを使用するように指定します。LDAPは組織内の特定タイプの情報を整理統合するものです。例えば、組織内のユーザーの各種リストをまとめて、1つのLDAPディレクトリを作ることができます。LDAPの詳細については、オフィシャルRed Hat Linux 参照ガイドの*Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)*を参照してください。以下のオプションから選択することができます：
 - **LDAP サーバ** — LDAPプロトコルを使用している指定サーバに(IP アドレスを提供して)アクセスできるようにします。
 - **LDAP ベースDN** — 識別名(DN: Distinguished Name)でユーザー情報を検索することができます。

- **TLS接続の使用** (*Transport Layer Security*の略語) **ルックアップ** — このオプション選択でLDAPは認証の前に、暗号化されたユーザー名とパスワードをLDAPサーバに送ることができます。
- **Kerberosを有効にする** — Kerberosは、ネットワーク認証サービスを提供するためのセキュリティシステムです。詳細についてはオフィシャル*Red Hat Linux 参照ガイド*の中の*Red Hat Linux*における*Kerberos 5*の使用を参照してください。ここでは3つのオプションから選択できます：
 - **レルム** — 1つ又は数台のサーバ(KDCとも呼ばれます)と数多くのクライアントから構成されるKerberos使用のネットワークにアクセスを可能にします。
 - **KDC** — Kerberosチケットを発行するマシン；Key Distribution Center (KDC)へのアクセスを可能にします。(このマシンはTGS；Ticket Granting Serverとも呼ばれます)
 - **管理サーバ** — **kadmind**が実行されているサーバへアクセスを可能にします。

3.19. パッケージグループの選択

パーティションが選択されて、フォーマット用の設定が済んだ時点で、インストールするパッケージを選択する準備ができたことになります。



注意

カスタム-クラスインストールを選択する場合以外は、インストールプログラムが自動的に、ほとんどのパッケージを選択します。

機能別にグループパッケージしてあるコンポーネント(例えば、**C 開発**、**ネットワーク付きワークステーション**、**Webサーバ** など)や、個別パッケージ、又はそれら2つの組み合わせなどを選択することができます。

コンポーネントを選択するには、その横にあるチェックボックスをクリックします。(図3-21を参照)。



図3-21. パッケージグループの選択

インストールするコンポーネントを選択してください。カスタム-クラスインストールの途中で**すべて** (コンポーネントリストの最後にある)を選択するとRed Hat Linuxに含まれている全てのパッケージをインストールします。すべてのパッケージを選択した場合、約1.7 GBの空き領域が必要です。

個別にパッケージを選択するには、画面の下部の**個別パッケージの選択**のボックスにチェックを入れます。

3.19.1. 個別パッケージの選択

インストールするコンポーネントを選択した後は、個別のパッケージを選択したり、選択を解除したりできます。(図3-22を参照)。

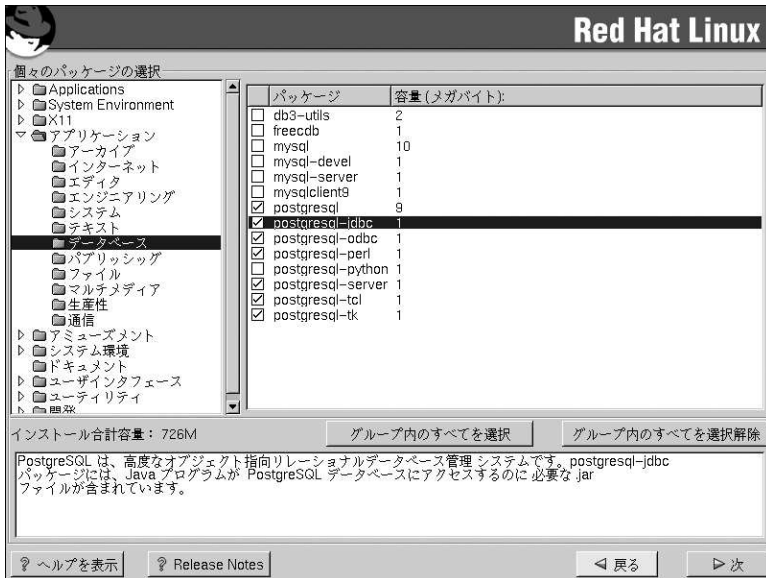


図3-22. 個別パッケージの選択

例としてアプリケーション/エディタカテゴリ内のパッケージリストを見るには、矢印キーを使用してこのグループを選択し、[Enter]キー又は[Space]キーを押します。「+」サイン(閉じた状態)をクリックすると「-」サイン(開いた状態)になり、このカテゴリのパッケージリストが表示されます。現在選択されているパッケージには「*」が付いています。[Enter]キー又は[Space]キーを押して、選択あるいは選択解除をします。

特定のパッケージの説明を見る場合は、そのパッケージが選択されていることを確認して、[F1]キーを押します。



注意

パッケージの幾つかは(例えば、カーネルや一部のライブラリ)全てのRed Hat Linux システムに要求されていて、選択と選択解除には選べません。これらの基本パッケージはデフォルトで選択されています。

3.19.2. 未解決の依存関係

多くのソフトウェアパッケージが正しく機能するために他のソフトウェアパッケージに依存するために、それらのパッケージもシステムにインストールされる必要があります。例えば、多くのグラフィカルRed Hatシステム管理ツールは、pythonとpythonlibパッケージを必要とします。システムが正常に機能するために必要な全てのパッケージがあることを確認する目的で、Red Hat Linuxは、ユーザーがソフトウェアパッケージをインストール又は、削除する度に、これらのパッケージの依存関係をチェックします。

あるパッケージが、まだインストール選択をしていない別パッケージを必要とする場合、プログラムではそうした未解決の依存関係のリストが表示されますので、ここで解決することができます。(図3-23を参照)。

未解決の依存関係の画面は選択したパッケージによって必要としているパッケージがない場合にのみ表示されます。画面下部の不足しているパッケージのリストの下に、**依存を解決するパッケージをインストールする**というチェックボタンがデフォルトで選択されています。チェックがある状態のままですと、インストールプログラムは選択されたパッケージのリストへ全ての必要なパッケージを追加することによって、自動的にパッケージの依存関係を解決します。



図3-23. 未解決の依存関係

3.20. インストールの準備完了

ここで、Red Hat Linuxのインストールの準備が出来たことを示す画面が表示されます。

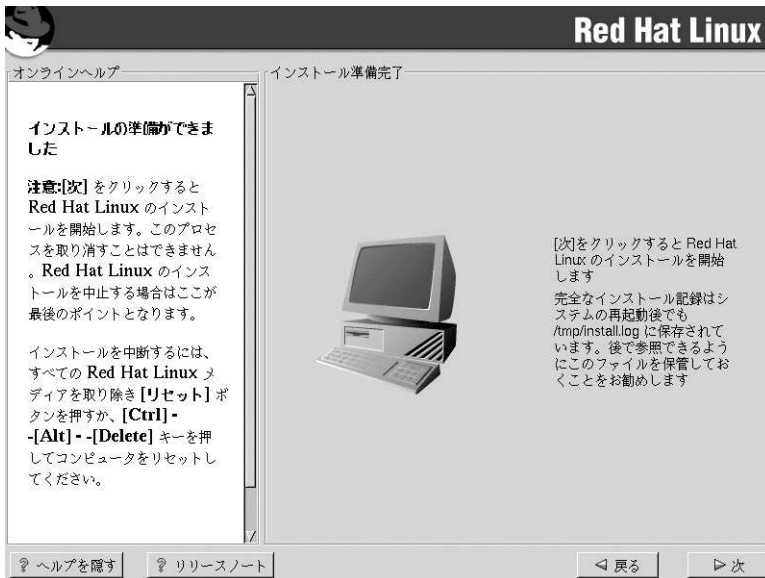


図3-24. インストールの開始

**警告**

何らかの理由のためにインストールを続行しない場合は、これがプロセスを安全にキャンセルしてマシンを再起動できる最後のチャンスです。次 ボタンを押すと、パーティションの書き込みとパッケージのインストールが開始されます。インストールを中止するのでしたら、ハードディスク上の現在の情報が書き換えられる前に、再起動する必要があります。

このインストールプロセスを取り消すには、OS/400コンソールを使用してLPARをオフに構成変更します。また速やかにシステムのパワーダウンを実行する必要もあるでしょう。

参照の為に、システムを再起動すると /tmp/install.log でインストールの完全なログを確認することができます。

3.21. パッケージのインストール

この段階では、すべてのパッケージがインストールされるまで、他に操作することはありません。(図3-25を参照) 処理の時間は選択されたパッケージの数とコンピュータのスピードによります。



図3-25. パッケージのインストール

3.22. インストールの完了

Red Hat Linux 7.1 のインストールはほとんど完了です。

インストールプログラムが終了すると、[Enter]キーを押すように指示が表示されます。(図3-26を参照)。そうすると、LPARはインストールされたRed Hat Linux OSで再起動して来ます。



用心— IPL を実行又は LPAR をオフに構成変更する前に

正しく再起動する為には、カーネルイメージとカーネルコマンドラインの引数をIPLソースに保存しなければなりません。Linuxにログインして、以下の内の適合する指示に従って下さい。

仮想ディスクにインストールして、SCSIディスクはない場合、次の2つのコマンドを使います：

```
/sbin/installkernel prep
/sbin/installcmdline prep
```

仮想とSCSIの両方のディスクがあり、最初の仮想ディスクのPREPブートパーティションからIPLしたい場合、次の2つのコマンドを使用します：

```
/sbin/installkernel prep
/sbin/installcmdline prep
```


複数のSCSIディスク(仮想ディスクの有無に関係なく)を使用して、Aサイド又は、BサイドからIPLしたい場合、次の2つのコマンドを使用します：

```
/sbin/installkernel a
/sbin/installcmdline a
```

各コマンドでaをb引数に入れ換えるとBサイド上にカーネルとコマンドラインをインストールします。



注意：

/sbin/installkernelコマンドが終了するまでしばらく時間がかかります。

ここでLinuxをシャットダウンしてLPARをオフに構成変更出来ます。そして構成変更を再度オンにする前に、IPLソースをLPARの為に*NWSSTGか、**A**か、**B**に設定する必要があります。

rootとしてログイン出来る場所はコンソールか、あるいは/etc/securettyにリストしてあるデバイスだけということを忘れないで下さい。リモートシステムからrootとしてログインしたい場合は、sshを使用します。



図3-26. インストールの完了

3.23. レスキューモードでインストールディスクの使用

LPARがブートしない場合、レスキューモードでインストールディスクを使用することが出来ます。レスキューモードでは、LPARのディスクパーティションにアクセス出来ますので、インストールを救済するための各種変更が可能です。

レスキューモードでブートするには、インストールプログラムのブート法の指示に従います：NWS記述の中で、IPLオプションパラメータを'**rescue**'にセット(引用の含む)するか、又は、SCSIドライバーをロードする必要がある時は'**dd rescue**'にセットします。

言語選択画面(項3.4を参照)の後で、インストールプログラムはLPAR上にディスクパーティションのマウントを試みます。その後、必要な変更を加えることが出来るシェルプロンプトが提供されます。これらの変更には、「インストールの完了」セクションで説明してあるように、IPLソースへのカーネルとコマンドラインの保存も含まれます(項3.22を参照)。

変更が完了したら、**exit 0**コマンドを使用してシェルを終了します。これが、Cスロットからの再起動をもたらします。A又は、Bあるいは、*NWSSTGから再起動するには、現在のシェルの代わりに、LPARをオフに構成変更します。

3.24. レスキューモードでSCSIユーティリティにアクセスするための特別な配慮

LPARがNative DASDディスクを使用する場合、レスキューモードでSCSIユーティリティにアクセスする必要があるかもしれません。これらのユーティリティはドライバーディスクCD上に収納されています。ドライバーディスクCDは特殊なステップを経ないとレスキューモードからマウント出来ません。以下にそのステップを説明します。

Linux LPARに2つ目のCD-ROMドライブが割り当てられていれば、その2つ目のドライブにドライバーディスクをマウントすることが出来ます。

CD-ROMドライブが1つしかない場合は、次のステップを使用してNFSブートを設定する必要があります：

1. /qopt/red_hat/ppc/iSeries/vmlinuxを、Linux LPARが含まれるiSeriesシステムのIFSにコピーします。この実行には次のコマンドを使います：

```
COPY OBJ ('/qopt/red_hat/ppc/iSeries/vmlinux') TODIR ('/tmp')
```

 /tmpは、IFS上の場所によって入れ換えることに注意して下さい。
2. 1枚目のインストールディスクを、他のLinux LPAR又は他のLinuxシステムのファイルシステム上にコピーします。
3. このインストールディスクのコピーがNFS かFTP経由で利用できるようにします。
4. レスキューが必要なLPARをオフに構成変更するか、あるいはパワーダウンします。IPLソースがIFS上のvmlinuxのコピーを指定する場合(上記ステップ1) 以外は、レスキューモード内のインストールディスクのブート法の説明に従って、IPLパラメータを設定します。
5. インストールディスクがCD-ROMドライブ内でないことを確認して下さい。
6. Linux LPARをIPLします。
7. 項3.23の説明にあるように、プロンプトに従います。インストールソース用にもう1つのプロンプトが表示されます。NFS 又はFTP(状況に応じて) を選択して、次に出るネットワーク設定画面を完成させます。
8. Linux LPAR がレスキューモードでブートしたとき、CD-ROMドライブは利用可能であり、ドライバーディスクをSCSIユーティリティアクセスの為にマウントすることが出来ます。

付録A.

テクニカルサポートを受けるには

A.1. ユーザー登録の実行

Red Hat Linux 7.1のオフィシャル版をお持ちの場合は、Red Hatのお客様としての特典を得るために登録を忘れずに実行して下さい。

購入されたオフィシャルRed Hat Linux製品の種類に従って、以下に示す特典の一部、又は全てを得ることが出来ます：

- オフィシャルRed Hat サポート— Red Hat, Inc.のサポートチームからインストールに関する質問に対する援助を受けることが出来ます。
- Red Hat ネットワーク— 簡単にパッケージを更新することが出来て、ユーザーのシステムにカスタマイズしたセキュリティ通知を受けることが出来ます。詳細は、<https://www.redhat.com/network>を御覧下さい。
- Priority FTPアクセス— 深夜に混雑したミラーサイトに接続する必要はありません。Red Hat Linux 7.1の所有者は無料でpriority.redhat.comへのアクセス権を持ち、昼夜に渡り広域バンド接続を提供しているRed Hatの優先顧客用FTPサービスを利用することが出来ます。
- Under the Brim: オフィシャルRed Hat E-Newsletter — 毎月、直接Red Hatから最新のニュースや製品情報を得ることが出来ます。

登録するには、<http://www.redhat.com/apps/activate/>を開いて下さい。購入されたオフィシャルRed Hat Linux ボックスセットの中の登録情報カード(Registration Information Card)に、個人用のProduct IDが記載してあります。

A.2. Red Hat サポートの概要

Red Hat は、オフィシャルRed Hat Linuxボックスセット製品に対してインストールのお手伝いを提供し、これは1台のコンピュータへのインストールに関してのみ有効です。これはお客様がRed Hat Linuxを正しくインストール出来るように手伝うことが目的です。この援助は電話又は、Web上で提供されます。

Red Hat サポートは、インストールを開始する前にもユーザーが持つ質問にお答えできる様に努めます。これには以下のような範囲が含まれます：

- ハードウェア互換性の質問
- 基本的なハードドライブのパーティション設定計画

Red Hat, Inc. サポートは、インストールの途中でも以下のような援助を提供します：

- 認定ハードウェアをRed Hat Linux オペレーティングシステムに認識させる
- ドライブパーティション設定の援助

また、インストール後にも以下のような基本的な作業をお手伝いします：

- **Xconfigurator**を使用したX Window Systemの正しい設定
- テキスト印刷用のローカルパラレルポートプリンタの設定
- マウスの設定

弊社のインストール援助サービスは、出来るだけ早く、簡単にユーザーのRed Hat Linux を使用可能にすることが目的です。しかしユーザーは、サポート外のカスタムカーネルのコンパイルからWebサーバの設定まで、Red Hat Linuxシステムで実行したい他の作業を多く持っているかも知れません。

この様な操作の救援としては、オンラインでのHOWTOドキュメントや、Linux関連のWebサイト、及び市販の出版物が数多くあります。多量のLinux HOWTOドキュメントがRed Hat Linux に含まれているドキュメントCDの/HOWTOSディレクトリに掲載されています。これらのHOWTO資料はテキストファイルで用意されていますので、Red Hat Linuxや他のオペレーティングシステムでも容易に読むことが出来ます。

多数のLinux関連のWebサイトが提供されています。Red Hat Linux に関する情報を探するのに最適な出発点はRed Hat, Inc.の以下のWebサイトです：

<http://www.redhat.com/>

多くのLinux関連の書籍も入手可能です。Linuxの経験がない場合、Linuxの基本を網羅する本が先ず貴重な資料となります。幾つかの題名をここに紹介しましょう。Bill Ball著の*Using Linux*、Bryan Pfaffenberger著の*Linux Clearly Explained*、Jon "maddog" Hall著の*Linux for Dummies*、Bill McCarty著の*Learning Red Hat Linux*などです。

Red Hatは、また各種の要件ベースで、設定作業とインストール援助には含まれていない操作を援助するサポートプランを提供します。詳細についてはRed HatサポートのWebサイトを御覧下さい。Red HatのテクニカルサポートWebサイトは以下のURLで見ることが出来ます：

<http://www.redhat.com/support/>

A.3. Red Hat サポートの範囲

Red Hat, Inc.は、オフィシャルRed Hat Linuxボックスセットを購入されたお客様に対してのみインストール援助を提供します。他の企業からLinuxを入手された場合、サポートに関してはその企業に連絡する必要があります。以下にそのような他社企業の例を示します：

- Macmillan
- Sams/Que
- Linux Systems Labs (LSL)
- Mandrake
- CheapBytes

さらには、以下の方法で入手されたRed Hat LinuxはRed Hat:からのサポートの対象とはなりません。

- Red Hat Linux PowerTools アーカイブから入手
- インターネット上のFTP経由でダウンロードで入手
- Motif やApplixwareなどのパッケージから入手
- 他のユーザーのCDからコピー、又はインストールで入手

A.4. テクニカルサポートのご利用方法

オフィシャルRed Hat 製品用のテクニカルサポートを受けるには、先ず、登録する必要があります。

オフィシャルRed Hat製品はすべてプロダクトIDコードが付いて来ます。16個の英数文字列です。Red Hat Linux 7.1用のこのプロダクトIDはボックスの中にある登録情報カードに表示してあります。ユー

ザーのプロダクトIDは切り取り線付きのカード上にあり、その部分だけを取り外して安全な場所に保管することができます。このカードは必要ですので紛失しないようにして下さい。

**注意**

このプロダクトID付きのカードは処分しないで下さい。このプロダクトIDはテクニカルサポートを受ける時に必要です。この証書を紛失した場合には、サポートを受けることが出来ない場合があります。

プロダクトIDは、購入したRed Hat製品に従って、Red Hatから取得するテクニカルサポートや、他の特典又はサービスを可能にするコード番号なのです。購入製品次第では、規定の期間中に、priority FTPアクセスの使用も可能になります。

A.4.1. テクニカルサポートの為のユーザー登録

テクニカルサポートの為に登録するには、以下の項目が必要です：

1. 以下のサイト：<http://www.redhat.com/apps/activate/>で顧客プロフィールを作成します。このステップをすでに終了している場合は、次のステップへ進んで下さい。Red HatのWebサイトでまだこの顧客プロフィールを作成していない場合、新規に作成して下さい。
2. 顧客プロフィールの中で作成したログイン名とそのパスワードを使用してRed HatサポートのWebサイト：<http://www.redhat.com/support/>でログインします。
3. 必要であれば、連絡先情報(電話、eメールアドレスなど)を更新します。

**注意**

eメールアドレスが正しくなければ、テクニカルサポート依頼に関する連絡がユーザーに届かなくなり、さらにはeメールを通してログイン名やパスワードを取り出すことも出来なくなります。正しいeメールアドレスを確実に報告して下さい。

プライバシーに関して心配な場合は、Red Hatのプライバシー規定を、http://www.redhat.com/legal/privacy_statement.htmlで御覧下さい。

4. プロファイルに製品名を追加します。以下の情報を入力して下さい：
 - ボックスセット製品のプロダクトID
 - Red Hat Linux製品がインストールされるハードウェアの説明
 - 製品が契約の場合、サポート証書の番号、又は権利番号

5. 好みのユーザー個人設定
6. オプションの顧客アンケートに回答
7. 申請内容を送信

上記のステップが全て正しく完了しますと、以下のサイトでログイン出来ます。<http://www.redhat.com/support>そして、新規のテクニカルサービス依頼を開くことが出来ます。但し、それでもまだ電話でのテクニカルサポートを得るにはプロダクトIDを使用する必要があります(購入の製品に電話サポートが付いている場合)。このプロダクトIDを紛失しないよう気を付けて下さい。それが無い場合はサポートを受けることが出来ないことがあります。

A.5. テクニカルサポートへの質問

テクニカルサポートには科学的側面と直観的側面があります。ほとんどの場合、サポートスタッフは問題を解決するにあたって、ユーザーからのご説明やユーザーとの会話に頼らざるをえません。したがって、疑問や障害を報告する際には、可能な限り詳細かつ明確に説明して頂くことが重要になります。以下に問い合わせに際して必要な情報と、その説明の方法を示します：

- 問題の症状(例：「LinuxからCD-ROMドライブにアクセスできません。アクセスしようとすると、タイムアウトエラーが発生します。」)
- 問題が発生した時期(例：「昨日、付近で雷雨が発生するまでは正常に動いていました」)
- システムに対する変更内容(例：「新しいハードディスクドライブを追加して、**Partition Wizzo**を使用してLinux パーティションを追加しました。」)
- その他、インストール手法(CD-ROM, NFS, HTTP)など現在の状況に関連していると思われる情報。
- 問題に関連すると思われる特定のハードウェアデバイス(例：もしネットワークを設定できないのでしたら、使用しているネットワークカードの種類)

A.5.1. サポートへの質問の出し方

下記サイトでログインします。<http://www.redhat.com/support> そして、新規のサービス依頼を開きます。またはサポートに電話をかけて下さい。購入された製品に電話サポートがついている場合、または電話サポート契約を購入している場合はサポートにかける電話番号が登録プロセス中に提供されません。

Red Hatのオンラインサポートシステムの詳細については以下のwebサイトを御覧ください。<http://www.redhat.com/support/services/access.html>.

A.6. 良くある質問へのサポート対応(FAQ)

A.6.1. Q: support@redhat.comへのEmailが戻って来る

support@redhat.com にemailを送信しましたが、自分に戻ってきました。何が問題でしょうか？

A.6.2. A: support@redhat.com は現在使用されていません。

お客様により良いサービスを提供するために、Red Hatはemailサポートのプロセスを再構成中です。そのためsupport@redhat.com アドレスは現時点では機能していません。しばらくの間、Web又は電話でのサポートをご利用下さい。

A.6.3. Q: システムにログイン出来ません。

登録はすでに終了していますが、システムにログイン出来ません。

A.6.4. A: 古いログインとパスワードは使用できません。

古いログインとパスワードを使用してログインしているか、又はログインとパスワードのどちらかからタイプミス可能性があります。詳細は項B.2.3で確認して下さい。

Red Hat Linuxインストール時のトラブルシューティング

この付録では、ユーザーが遭遇する一般的なインストール時の問題を説明して、それらの問題への解決を提案します。

B.1. インストール中の問題

B.1.1. 自動パーティション設定画面が表示されない

インストール中に自動パーティション設定画面が表示されない場合は、多分、Red Hat Linuxをインストールするための十分な空き容量がないことが原因と考えられます。

手でパーティション設定をしたくない場合は、ここでインストールを終了する必要があります。(フロッピーディスク又はCDROMをそのドライブから取り出して、システムを再起動します)。それからインストールの為の空き領域を再構成します。

B.1.2. パーティション作成の問題

パーティション(例えばroot(/)パーティション)の作成中に問題がある場合は、そのパーティションのタイプをLinux Nativeに選択しているかどうか確認してください。

B.1.3. 未使用領域の使用

swapと「/」(root)のパーティションを作成した後に残った領域をrootとして使う選択をした時、それでもハードディスクドライブに領域が残る場合があります。

B.1.4. パーティション設定の他の問題

Disk Druidを使用してパーティションを作成している時、次の画面へ移動できない場合は、たぶん**Disk Druid**の依存関係を満たすために必要なパーティションがすべて作成されていないことが考えられます。

最低必要条件として次のパーティションが作成される必要があります:

- Linux native タイプの「/」(root) パーティション
- Linux swap タイプの<swap> パーティション



ヒント

パーティションタイプをLinux swapとして定義する場合は、**Disk Druid**が自動的にマウントポイントを割り当てますので、自分でマウントポイントを割り当てる必要はありません。

B.1.5. Pythonのエラーが出る

Red Hat Linuxのインストール、又はアップグレードの途中でインストールプログラム(**Anaconda**として知られています)がPythonあるいは**traceback**のエラーで失敗することがあります。このエラーは個別のパッケージを選択した後や、`/tmp`にアップグレードログを保存しようとする時に発生することがあります。このエラーは次のようなものです：

```
Traceback (innermost last):
File "/var/tmp/anaconda-7.1//usr/lib/anaconda/iw/progress_gui.py",
line 20, in run
rc = self.todo.doInstall ()
File "/var/tmp/anaconda-7.1//usr/lib/anaconda/todo.py", line 1468, in
doInstall
self.fstab.savePartitions ()
File "fstab.py", line 221, in savePartitions
sys.exit(0)
SystemExit: 0

Local variables in innermost frame:
self: <fstab.GuiFstab instance at 8446fe0>
sys: <module 'sys' (built-in)>
```

```
ToDo object:
(itodo
ToDo
p1
(dp2
S'method'
p3
(iimage
CdromInstallMethod
p4
(dp5
S'progressWindow'
p6
```

<failed>

このエラーは`/tmp`へのリンクが他の場所へのシンボリックリンクであったり、またはそれらのリンクが作成以来、変更されていたりするシステムで発生します。これらのシンボリックまたは変更されたリンクはインストールプロセスでは無効になっていますのでインストールプログラムが情報を書き込みできずに失敗してしまいます。

このようなエラーの経験をされた場合はまず、**Anaconda**用の入手可能なerrataをダウンロードしてください。Errataは以下のサイトで御覧下さい。<http://www.redhat.com/support/errata>

またこの問題に関するバグレポートも検索出来ます。Red Hatのバグ追跡システムを検索するには以下のサイトを御覧下さい。<http://bugzilla.redhat.com/bugzilla>.

最後に、それでもこのエラーに関する問題が残るような場合は製品を登録して、私供のサポートチームに連絡してください。製品を登録するには以下のサイトへアクセスします：<http://www.redhat.com/apps/activate>.

B.2. インストール後の問題

B.2.1. *NWSSTGからIPL(初期プログラムロード)できない

*NWSSTGからIPLするのに問題がある場合、PrePブートパーティションを**active**として設定していない可能性があります。

B.2.2. サーバインストールとXに関する問題

サーバインストールを実行して、Xの起動に問題があるようでしたらX Window Systemがインストールの実行中にインストールされていない可能性があります。

サーバクラスインストールの後で、X Window Systemが必要な場合はアップグレードを実行してXをインストールする事ができます。アップグレードの途中でX Window System パッケージを選択します。そしてGNOME,かKDE,かまたは両方を選んでください。

別の方法として、XFree86 RPMをインストールすることも出来ます。その詳細は、サイト <http://www.redhat.com/support/docs/howto/XFree86-upgrade/XFree86-upgrade.html>で御覧ください。

B.2.3. ログイン時の問題

インストール中にユーザーアカウントを作成していなかった場合は、rootとしてログインしてrootに割り当てているパスワードを入力する必要があります。

ユーザーアカウントのパスワードを忘れた場合は、rootとして操作する必要があります。rootになるには、su -と入力した後にプロンプトでrootパスワードを入力します。そしてpasswd <username>と入力します。ここで指定されたユーザーアカウントの新しいパスワードを入力することができます。

B.2.4. Netscape NavigatorがJavaScriptページでクラッシュする問題

もし、Netscape Navigatorが頻繁にJavaScriptsを含むページでクラッシュするのでしたら~/mailcap ファイルを編集する必要があります。

picoを使用してターミナルのプロンプトでpico ~/mailcapと入力してファイルを編集します。(どのテキストエディタでも良い)

そのファイルからつぎのラインを削除します:

```
application/x-javascript; \ x-mozilla-flags=save
```

またNetscapeNavigatorの中のJavaScriptを停止することもできます。編集=>ユーザー設定 =>高度な設定の順でクリックしていき、**Enable JavaScript** のチェックボックスを選択しないようにします。

これで効果がない時は、入手可能なら新しいバージョンのNetscape Navigatorを試して見て下さい。詳しい情報についてはRed Hat Linux errata ウェブサイトのセキュリティアドバイスを御覧ください。

Red Hat Linuxの再インストールと既存データの保存

C.1. iSeries Red Hat Linuxの論理パーティション上の既存データを保存する

一般的に、現存のインストール(Red Hat Linuxを含む)に対するRed Hat Linuxの上書きインストールはしばしば、論理パーティション(LPAR)に付属するディスク上(仮想及び物理)の一部又は全てのデータを消去することになります。これらのディスクが重要なデータを含んでいる場合、そのデータは保護されなければなりません。これを実行する手段は数種類ありますが、その中の幾つかはiSeries環境で独特のものです：

1. データは(再)インストールの前に保存したり削除したり出来ます。これは普通の、慣習的なLinuxのデータ保存手段(tarballs,など)です。
2. データを別のOS/400 又はLinuxの論理パーティション(FTP, NFS等を経由)へ移動したり、コピーしたりする。それぞれのiSeries 論理パーティションは独立しているため、その論理パーティションの1つに存在するデータは、他の論理パーティションの再インストールに影響されません。
3. インストール中に論理パーティションからディスクを取り出す。Red Hat Linuxインストールが複数のディスク(仮想及び物理)を含んでいて、該当のディスク(例として：データベースのデータを含むディレクトリとして/home/myuseridにマウントされていると想定)がRed Hat Linuxインストールのデータを持っていない場合、それは再インストールの時間中は論理パーティションから取り出して、その後インストールが完了した後に装着し直すことが出来ます。この機能が実行される過程の詳細については以下のサイトで*Configuring Linux in a guest partition*文書を参照して下さい。(http://publib.boulder.ibm.com/pubs/html/as400/v5r1/ic2924/info/rzalm/rzalmlinuxkickoff.htm)
4. 新しくディスクを追加してデータをコピーし、インストールの間にそのディスクを取り出す。保管しておくデータがOS/400上にある場合、新規の仮想ディスクを作成してマウントしてからデータをコピーし、その後インストール中にそれを取り出す方法は、最初から計画していなかった場合にステップ3の特徴を活用する手段の1つです。インストール終了後には、ディスクは装着し直して永久マウントにするか、あるいは再度コピーし戻して新しいディスクの内容は削除することも出来ます。同じような操作はスベアの物理ディスクで利用できます。

C.2. 別の考察: iSeries 仮想ディスク

新規インストールを計画する場合、仮想ディスクの柔軟性を利用すると最近の大容量物理ディスクの世界ではあまり一般的でない画策を可能にします。仮想ディスクを使用する場合、Red Hat Linuxディストリビューションを納めるのに十分な領域を1つ設定し、別の仮想ディスクにアプリケーションとアプリケーションデータを収納する方法は考慮べき妙案です。仮想ディスク上に単独パーティションを置き、特定のアプリケーションを収納するのも1つの策でしょう。

仮想ディスクは物理的境界に制限されていませんので、利用出来る範囲でいかなるサイズにでも設定でき、Red Hat Linuxの再インストール時には、取り出して保存することが出来ます。

索引

Symbols

はじめに, 1

インストール

CD-ROM/2番目, 11

カスタム-クラス, 9

キーボードで移動, 13

クラス, 16

サーバクラス, 8

テキストモード

ユーザーインターフェイス, 11

ディスク容量, 5

パーティション設定, 19

プログラム

テキストモードユーザーインターフェイス, 11

ドライバディスク, 14

ユーザーインターフェイス, 11

レスキューモード, 45

起動, 13

ワークステーション-クラス, 7

選択, 6

インストールクラス

選択, 6

キーボード

の使用中インストールプログラム内を移動, 13

クラス

インストール, 16

サポート, テクニカル

(参照テクニカルサポート)

ステップ

インストールクラスの選択, 6

ディスク容量, 5

スワップ, 21

ワークステーションの自動パーティション, 8, 10

タイムゾーン

設定, 33

テクニカルサポート, 47

FAQ, 50

その登録, 48

オンライン登録, 49

ポリシーの概要, 47

質問の出し方, 50

他社製品には非対応, 48

問題の説明の仕方, 50

ディスクパーティションの設定, 17

ディスク容量, 5

トラブルシューティング, 51

インストール後, 53

Netscape Navigator, 53

サーバクラスのインストールとX, 53

ログイン, 53

インストール中, 51

*NWSSTGからIPLできない, 53

Python エラー, 52

ハードドライブの未使用領域の使用, 51

パーティション作成, 51

パーティション設定の完了, 51

自動パーティション設定, 51

ドライバディスク, 14

ネットワーク

設定, 26

ハードウェア

iSeries

インストールの準備, 5

パーティションのフォーマット, 25

パーティションの削除, 23

パーティションの追加, 22

パーティションの編集, 23

パーティション設定, 19

fdiskの使用, 23

自動, 17

推奨, 21

問題, 21

パスワード

rootの設定, 34

ユーザーアカウント, 36

パッケージ

インストール, 39

グループ, 39

選択, 39

個別, 40

選択, 39

パッケージのインストール, 39

ホスト名

設定, 27

マウス

設定, 32

選択, 32

マニュアルの表記法, 1

ユーザーアカウント

作成, 36

設定, 36

ユーザーインターフェイス

インストールプログラム, 11

テキストモードインストール, 11

リカバリ-CD-ROM

(参照レスキューモード)

ルート「/」パーティション, 21

レスキューモード, 45

SCSIユーザーリティアクセス, 46

依存関係

パッケージのインストール, 41

仮想ディスク, 55

既存データの保存, 55, 55

起動

インストールプログラム, 13

言語

選択, 14

複数言語のサポート, 32

- 時計, 33
- 自動パーティション設定, 17
 - サーバ, 17
 - ワークステーション, 17
- 設定
 - タイムゾーン, 33
 - ネットワーク, 26
 - ホスト名, 27
 - 時計, 33
 - 時刻, 33
- 選択
 - パッケージ, 39
- 他の資料
 - webサイト, 5
- 認証
 - 設定, 37
 - Kerberos, 37
 - LDAP, 37
 - MD5 パスワード, 37
 - NIS, 37
 - シャドウパスワード, 37
- 必要なディスク容量, 6
 - カスタム-クラス, 9
 - サーバ-クラス, 8
 - ワークステーション-クラス, 7
- 本マニュアルの使用法, 3
- 未解決の依存関係
 - フルインストール, 41
- 未設定のパーティション, 21

D

- Disk Druid
 - ドライブの説明, 21
 - パーティションの削除, 23
 - パーティションの追加, 22
 - パーティションの編集, 23
 - パーティションを追加する場合の問題, 21
 - パーティション設定, 19
 - ボタン, 22

F

- fdisk, 23
- fsck, 25

I

- iSeries ハードウェア
 - webサイト, 5
 - インストールの準備, 5

R

- recursion
 - (参照recursion)
- Red Hat Linuxの再インストール, 55
- Red Hat 良くある質問, 3
- root パスワード, 34

S

- SCSIユーティリティ
 - アクセス
 - レスキューモード, 46
- SCSIユーティリティアクセス
 - (参照rescue mode)